

春夏 spring - summer
2018

vol.

22

春風新聞

shumpu shimbun



春風社

Shumpusha Publishing Co., Ltd.

〒220-0044

横浜市西区紅葉ヶ丘 53

横浜市教育会館 3F

TEL (045)261-3168

FAX (045)261-3169

www.shumpu.com

✉ info@shumpu.com

【図書目録】 哲学・思想・宗教 4 / 文芸評論 5 / 文学 6 / 写真・音楽・芸術 7 / 詩歌・俳句 7 / 観光・環境・自然・健康 8 / 立教大学人文叢書 8 / 横浜市立大学新叢書 8
東洋英和女学院大学社会科学叢書 8 / 心理 8 / 総記・辞典・事典 8 / 言語 9 / 教育 9 / 政治・経済 10 / 社会・歴史 10 / 人類学 12 / シリーズ 来たるべき人類学 12
【連載】 日々の風 暮らしのなかの哲学 長谷川宏 4 / 翻訳ピンチ! 中条省平 6 / 帰ってきた mini 大河 しりあがり寿 7 / 英文学にデコピン 阿部公彦 8 / ポストモダンの処方箋 白井聡 10
【コラム】 自著を語る 5 / 横浜 9 / 書評 11

今や暗夜我れ真の来るを待つ、真実来り至りて光明永へに明なり。



ことば 『新井奥邃著作集』第六巻 124 頁 / 『おうすいポケット 新井奥邃語録抄』208 頁より
絵 金丸奈央『さげび』（動物画コンクール 横浜市緑の協会理事長賞 2017 年、原画はカラー）

特集

教育・学問の原点

鎌倉アカデミアに学ぶ

対談

大嶋拓 × 三浦衛

二〇一八年三月三十一日、横浜市教育会館にて、

映画『鎌倉アカデミア 青の時代——ある「自由大学」の記録』上映会の後、監督の大嶋拓氏と春風社代表の三浦衛が対談しました。その模様をお伝えします。

映画ができるまで

三浦 大嶋監督から映画についていろいろなお話を伺えればと思います。今日の上映会は春風社が企画・主催したものですので、まずは大嶋監督と春風社との出会いからお話いただけますか。

大嶋 二〇〇九年に私は、「異端の劇作家 青江舜二郎 激動の二十世紀を生きた」という亡父の評伝を、地方紙『秋田魁新報』で連載していました。父は秋田の出身だったものですから。そして、これを機に青江の戯曲を出版したいと、秋田に縁のある出版社を探していたところ、『秋田魁新報』に載っていた三浦さんのご著書『出版は風まかせ』（春風社）の書評を目にしました。三浦さんも秋田出身で、私の担当だった記者の方が偶然にも三浦さんの出身高校の同級生だったということもあり、すぐ連絡をとりました。

三浦 監督から出版のお話をいただき、二〇一〇年に青江舜二郎の『法隆寺』と『河口』という二編の戯曲を一冊にし春風社で出しました。翌二〇一一年には大嶋監督が『秋田魁新報』に連載していた評伝を『龍の星霜——異端の劇作家 青江舜二

郎』の題名で出版。こうして春風社と大嶋監督との縁が出来たわけですね。青江舜二郎は鎌倉アカデミアの教授で、この映画にも出てきました。お父様が鎌倉アカデミアの教授だったことももちろん関係しているとは思いますが、なぜ、こういうドキュメンタリー映画をつくらうと思われたのでしょうか。

大嶋 新聞での連載として二〇〇九年から一年間、父親の七八年の生涯について書きながら、いろいろな時代のことを調べていました。そのころから、鎌倉アカデミアについてもっと掘り下げたいと思っていました。

映画の冒頭、前田武彦さんや山口瞳夫人の治子さんが鎌倉の光明寺の本堂で話している場面がありますが、あれは実は連載よりも前の二〇〇六年に撮影したもので、鎌倉アカデミア六十周年の記念祭の様です。「卒業生もみんなかなり高齢だし、七十周年はできないだろうから……」と、ある関係者の方に勧められて、記録としてカメラを回していました。

そのあと、別の映画を撮ったりしているうちに私も五十代に入りまして、人間、ある程度年齢がいつてくると、自分が生きてきた時代や自分

が生まれる前の時代への関心が深くなっていくのでしょうか。六十周年のときに撮っていた映像を五年たつて見返してみると、当時よりおもしろい。そのとき撮ろうと思っていた劇映画が暗礁に乗り上げたり、東日本大震災が起きて津波の映像に衝撃を受けたりして、ドラマはもう現実

に追いつけない、現実のすごさに太刀打ちできないんじゃないかと感じていました。そんなこともあって、鎌倉アカデミアを映画にしてみようかと、二〇一二年からインタビューを始めました。

三浦 そして二〇一六年に完成された。

大嶋 はい。映画の最後に出てくる七十周年記念祭が二〇一六年六月。その後編集して秋に完成しました。

三浦 この映画は、敗戦直後から時系列で描かれています。戦後すぐにできた鎌倉アカデミアは、朝鮮戦争が始まるころ閉校になります。映画をつくるにあたり、その時代について感じたところはありますか。

大嶋 日本が占領されていた時代は歴史の彼方の話ではなく、現在にも影響を及ぼしているのだと、いろいろなところで感じました。占領軍は最初のうちは共産主義を容認する姿勢を見せながら、何年かののちには手のひら返してレッドパージを行う。それに翻弄されて鎌倉アカデミアは潰れます。アメリカの思惑抜きで決められないことはいまだにありますし、占領下の日本と現代の日本とは、実はあまり変わっていない。

三浦 鎌倉アカデミアは「アカ」と呼ばれ、支援者も失って閉校に追い込まれました。しかしこの映画を見ると、教授陣には、実際に共産党に入っている方も少しいますが、林達夫はじめベラルな人たちが多いことが分かります。

大嶋 そうなんです。主な教授・講師陣で共産党に入っていたのは服部之總ほか数名、ほとんどはリベラル派の文化人でした。学生も党员として活動していたのはひとクラスに二人か三人程度だったそうです。

三浦 それで四年半で閉校になるとは、日本が歴史的に大きく様変わりした時代なんだと感じますね。

「何を描いても心配でなりませんのは、学生たちのこれからの方針でした」。三枝博音は、その後の学生たちの身の振り方をどうするかということでもずいぶん動かれています。閉校時期も学生たちが他の大学に編入できるようにと九月に決められたそうです。鎌倉アカデミアは大学ではなく各種学校なのですが、当時は新制大学に移行して日が浅く、割と制度が緩かったようで、鎌倉アカデミアから立正大学や東洋大学に編入した学生がかなりいます。そこで勉強を続けて学位を取り、大学の先生になった方もいらつしやいます。

三浦 映画の中でも引用されていた、三枝博音の「私の描いている学園」という文章があります。「自分が何か問題をもつときは、すぐにそこに駆けつけた。自分が自信を失うような時は、すぐに外かけて行きたい。そこでは自分の意見をとりあげてくれ、普遍化してくれる。そこでは自分の不信や自分の虚脱をとりあげて、その原因を究明してくれ、自分だけのものではないことを明らかにして、新しい希望をもたしてくれ。そういう時、相手になってくれる人が先

生の中にも居れば、学生の中にもいる。喜びや悲しみや、希望や希望のなさ、そこへ行けば客観的になる。

そういうことによつて、生活がもつと深められる。だからそこでは、自分自分の意見を自由に公明にうち明けるといふことが、そこへ入るパスのようなものになる」。読むたびに、この映画を見るたびに、ぐつときま

大嶋 その次に「しんねりむつりしてよくよしては、現代では人は十分の生き方ができないということ、そこではみんなが自覚している」と、要するに「引きこもつて」いては、自分の問題を自分の中に抱え込んでいては前に進めないと云っています。そして鎌倉アカデミアでは「楽しい学園」の名のもと、教師も学生も日々、それを実践していました。

三浦 そうですね。やはり三枝博音の精神が鎌倉アカデミアに息づいていたのでしょうか。

僕はこの映画を何度も見ていますが、見るたびに息が深くなるような気がします。最近、政治状況も含めて、「空気が薄い」と感じることも多い。言葉は一体どうなっているのか。言葉は本来、三枝博音が言うように「自分の意見をとりあげてくれ、普遍化してくれる」ような人とつながっていくためのものなのに、そのような場はどこにあるのか。

FILM

鎌倉アカデミア 青の時代——ある「自由大学」の記録

「新しい日本を担う若者を育成する」という理念のもと、終戦間もない1946年5月、戦火を免れた鎌倉市の光明寺を仮校舎として、産業科、文学科、演劇科の三科からなる「鎌倉大学」が開校した。1948年春に「鎌倉アカデミア」と改称。経営科、文学科、演劇科、映画科の四科となり、横浜市栄区の旧海軍燃料廠第三試験所跡に移転した。三枝博音をはじめ、林達夫、服部之總、高見順、中村光夫など多くの著名な学者、文化人が教鞭を執り、教師と学生が切磋琢磨する「自由大学」を目指したが、時代の波に翻弄され、4年半で閉校。しかしその学び舎からは、いずみたく、山口瞳、前田武彦、高松英郎、鈴木清順といった多彩な人材が巣立っていった。鎌倉アカデミアはいかに生まれ、いかに滅び去ったのか。かつての学生たちの証言と貴重な資料から、その真実の姿を明らかにする。監督・大嶋拓は、鎌倉アカデミア演劇科教授・青江舜二郎の長男。2016年製作、2017年公開。119分。デジタルハイビジョン。(公式サイト <http://kamakura-ac.blue>)



大嶋 ありがたい感想です。

三浦 本づくりに引きつけた言い方をすると、本には余白があります。文字どおり「余りの白」と書きますが、本の余白は決して余っているのではなく、むしろ本文を演出するためのものです。この映画を最初に見たときから、今日も改めて、風景や場面が転換するときのちよつとした間が、本の余白のように感じられます。

大嶋 インタビューをつなげて人間映像ばかり続くと、見ている方もくたびれてくるだろうから、要所要所で光明寺の新緑や真夏の海水浴場夕焼けの海岸などの実景を入れてみました。実際、撮影に行つてみると、やはり鎌倉は風光明媚なところですね。山もあるし海もある。いい場所に学校をつくつたなと改めて思いました。

三浦 鎌倉アカデミアにかかわった学生さんたちの中には、鎌倉アカデミアといえば最初に校舎として使っていた材木座の光明寺だと強調される方もいれば、移転した後の大船の旧海軍燃料廠跡の校舎を「戦争のあとだから廃墟のような建物でも当た

学びの場としての「箱」と「人」

三浦 鎌倉アカデミアにかかわった



左：三浦衛、右：大嶋拓氏

り前」と感じている鈴木清順さんのような方もいます。学びの場所としての「箱」と「人」との関係も、この映画を見ながら考えさせられます。

大嶋 第一期生、第二期生にとっての心のふるさととは自分たちが学んだ光明寺です。でも、校舎が移った第三期生からは、よく知らない光明寺は心のふるさとにはなりようがない。燃料廠跡という廃墟みたいな建物でも、やはりそこで学んだ記憶が懐かしく思い出される。人間の記憶のおもしろさですね。

この人は校舎、廊下、トイレ、教室などをイメージし、人は出てこなかったそうです。僕自身は、「ガッコウ」というと、小学校の先生や、一緒に勉強したり遊んだりした人たちが浮かびますが。

大嶋 今のお話と対になるような話なんです。鎌倉アカデミア初年度から最終年度まで教えていた考古学者の三上次男による「種々く小さな集団」という文章があります。その中で、「いつてみれば学校があるから教師や学生がいたのではなく、教師や学生が集まっているから学校という場が必要だったというような感じがあった。教育とか研究とかいうものの本来の姿はそんなものなのであろう」と書かれています。

幾何学を学ばざる者は……

三浦 学びの場にとって「箱」と「人」は両輪かなと思うんですが、この学校では、「箱」よりも「人」の関係にむしろウェイトがかかっていますね。

大嶋 そうなんです。実際鎌倉アカデミアでは、「分室」という言い方で、各教授の自宅でお菓子を食べながら先生と話をするという、授業の延長が日常的に行われていた。これはすごいことですね。今は相当親しくなっていないければ、先生のところにはアポイントなしで訪ねて行くことはできないでしょう。

三浦 三枝博音は鎌倉アカデミアに、プラトンの「幾何学を学ばざる者は、ここに入るべからず」という言葉をギリシア語で掲げていた。「幾何学を学ばざる者」を敷衍すれば「科学的にものを考えない者は」ということでしょうか。そこにも戦争に対する思いがあるのかなと思います。

大嶋 そうですね。もつと科学的にものを考えていけば、いろいろな過ちを犯さず済んでいたという反省もあるかもしれません。

三浦 我々の出版の仕事に引きつけていえば、学術書にはやはり先行研究があり、そこに少しずつ新たな知見を積み重ねていくわけですね。それは三枝博音の精神に通底するものではないかと思えます。

大嶋 東日本大震災のときに、「想定外」という言葉が流行語のようになり、でも「想定外」とは非常に傲慢な言葉じゃないかと思えます。知見を積み重ね、ある程度のところまでは分かるけれども、それ以上は分からないということは、どの分野でもあるのではないかと。この映画を見ると、教師も学生も分からない者同士、「学びたい」「教わりたい」という気持ちが一番の原動力になっている。

大嶋 鎌倉アカデミアでは、学生と教師が同じ目線でお互いを高めたい、くことが徹底されていたらしいです。第二期生の入学試験に第一期生が立ち合ったり、「校歌」ではなく「学生歌」と呼ぶなど、本当に学生主体の学園づくりが行われ、教師の側もそれを期待していました。

三浦 自発的ですね。映画を見ていていろいろな場面で感じます。例えば『春の目ざめ』の日劇小劇場での公演も、学生の勢いに教師が押されて実現した。

大嶋 演劇科長である村山知義は最初、まだ学外公演は早いと言ったんですが、「これをジャンピングボードにしたいです」と学生が言うものだから、自ら演出を引き受けました。いいです。

三浦 鎌倉アカデミアの最後一年ぐらいいは、お金が入ってこないために、教師たちは無給で教えたそうですね。映画の中の齋藤昌男先生のコメントにもあるように、教える・教わるという関係の中で、教える人は教えることで受けとれるものがある、そういう喜びを感じているからこそできたことなのでしょう。

大嶋 三浦さんは大学を卒業して、最初に就いた仕事が高校の社会科の先生だったそうですね。

三浦 そうです。政治経済と現代社会を教えていました。私立の高校で割と自由にさせてもらえました。土曜日は二時間続きで「ゼミ」という授業があつて、そこで芝居をしたこともあります。文化祭の発表に出れば単位をやると言ったら、勉強が嫌いな子たちがばかり集まってきた（笑）。当時、僕は週一六時間授業を持っていましたが、このゼミの二時間は、他の一四時間に匹敵するくらい疲れました。

大嶋 密度の濃い授業だったんですね。

三浦 それなのに、ある役の男の子が文化祭本番に欠席したんですよ。裏切られた気がして、ショックでした。その後、彼から丁寧な手紙が届きました。「僕はどうしても、その日、出ることができませんでした。気持ちがあつたんだけど……」。その手紙を読んで救われた気がしました。

大嶋 でも、当日その子が来なかったのなら、その役はだれが？

三浦 僕がやりました。

大嶋 すごくですね、それは。三浦さんは図らずも、鎌倉アカデミア的な授業を実践していらしたんじゃないですか。

三浦 僕はこの映画を見ていて、鎌倉アカデミアとは三枝博音も書いていないように「希望と信頼の学び舎」だったのではないかと思います。敗戦後間もなくできた鎌倉アカデミアには、学ぶ者同士が集まり、これからは、日本でもうやっていくのかという「希望」を共有していた。また「信頼」とは、やはり三枝の言葉にあつた、「自分の意見をとりあげてくれ、普遍化してくれる」ということでしょうか。「信頼」のないところでそんなことは発言できませんから。

先日、BSフジの『プライムニュース』という番組で財務省の文書の改竄のことが取り上げられていました。コメンテーターとして東京大学名誉教授の山内昌之さんと作家の佐藤優さんが出演されていた。山内さんは、東京大学で三十年教え、多くの誠実な学生たちが官僚になつていくのを見てきて、「今回のことで官僚になつていくという学生が減るのではないかと危惧していました。佐藤優さんは、「誠実に仕事をこなし、日本を諦めないでほしい」といつていました。

このお二人の言葉は、若い人に向けてのものだと思います。国内のことも世界のことも、現状を見ると、疑問に思ったり気持ちが暗くなつたりすることが多い。そういうとき、最終的には、やはり教育という営み、若い人をどう育てていくのかということが希望だと思います。この映画ととても重なるところがありますね。

大嶋 鎌倉アカデミアは敗戦から間もないころ生まれました。そのときの日本はゼロからのスタートでした。だから「絶望」と言っていられない。逆に言うと、希望しか持ちえない時代でした。

三上次男の文章「種々く小さな集団」はこう締めくくられています。「アカデミアでの実験の結果は二十数年後の今日、はつきりと現れている。ここを通過した人々は、どの社会でも、信頼されるに足る重要な存在として、それぞれの職場で任務を果している。（中略）それは世俗的な出世とはまったく関係のない、大きく貴い価値である。その意味にお

いてアカデミアは決して消えうせてはいないし、過去のものでもない。そればかりか、アカデミア人がそれぞれの地で撒く種は、さらに多くの生命を新しく生み出しつつある」。

これを読むと、名利を捨てて日々を誠実に生きることこそ、人間の「希望」に結びつくような気がします。

三浦 最後に監督から一言お願いします。

大嶋 鎌倉アカデミア出身の方たちがスポッライトが当たった方は、いずみたく、前田武彦などごく一握りで、逆境にあつた方も多かったです。学校が潰れ、その後の就職でも苦勞したり、と。しかし皆さん、実に樂觀的、楽天的で、それはやはり鎌倉アカデミアのカラーではないかと思えます。

三浦 そうですね。

大嶋 三枝博音は閉校の際の「御挨拶」で相当ミゼラブルなことを書いていますけれど、学校自体は、金策に汲々としながらもお茶会やダンスパーティーなどのレクリエーションが盛んでした。鎌倉という土地柄もあり、皆さん、いろいろな娯楽を楽しんでいた。だから、苦しいことがあつても楽しむことを忘れないという心根が、この学校に集つた人たちにしみついているようです。これは人生においても大切なことじゃないでしょうか。「楽しい学園」を、皆さんもぜひ、それぞれのお仕事場で実現してほしいと思います。

三浦 春風社も二十年目に入り、これからも皆さんに喜んでいただけるような学術書をつくっていきたいと思っております。変わらぬご支援、お力添えいただければ幸いです。本日はありがとうございました。■

三浦 淡々と話されていて、かえってそれが、その人の中に鎌倉アカデミアの存在が骨太く残っているんだなと感じさせます。

大嶋 ええ。人生の中で精神が培われる、しかるべき時に、しかるべき人と出会い、しかるべき刺激を受けることがどんなに大事かと身につまされました。九十歳の方が二十歳のころを語るときは二十歳の瞳をしているんですね。私もそういうものに

三浦 七十年経ち、鎌倉アカデミアの四半は元学生たちの中で、時間的には短くても大きな存在になっている。映画の中の皆さんの表情が実にいい。映画の最後で「鎌倉アカデミアはあなたにとって何ですか？」という質問への答えもいいですね。

大嶋 実際のインタビューでも、アカデミアの話を聞かせてくださいというのと、どなたも嫌とはおっしゃらない。やはり「語りたい」という方が多い。映画では五分くらいしか登場していない方も含めて、皆さんそれぞれに少なくとも一時間、多い方は二時間半のインタビューをしています。本当に喜々として語られて、こちらも引き込まれてどんどん聞かされてしまう。だから編集のときに苦しかったですね。これも使いたい、あそこも残したいと。

ドラマと違って、ドキュメンタリーは基本的に編集でつくっていくものです。ここは要るのか、要らないのかと、長い間悩みました。本当に皆さんたくさんしゃべってくださいましたから。

三浦 希望と信頼の学び舎

三浦 僕はこの映画を見ていて、鎌倉アカデミアとは三枝博音も書いていないように「希望と信頼の学び舎」だったのではないかと思います。敗戦後間もなくできた鎌倉アカデミアには、学ぶ者同士が集まり、これからは、日本でもうやっていくのかという「希望」を共有していた。また「信頼」とは、やはり三枝の言葉にあつた、「自分の意見をとりあげてくれ、普遍化してくれる」ということでしょうか。「信頼」のないところでそんなことは発言できませんから。

先日、BSフジの『プライムニュース』という番組で財務省の文書の改竄のことが取り上げられていました。コメンテーターとして東京大学名誉教授の山内昌之さんと作家の佐藤優さんが出演されていた。山内さんは、東京大学で三十年教え、多くの誠実な学生たちが官僚になつていくのを見てきて、「今回のことで官僚になつていくという学生が減るのではないかと危惧していました。佐藤優さんは、「誠実に仕事をこなし、日本を諦めないでほしい」といつていました。

このお二人の言葉は、若い人に向けてのものだと思います。国内のことも世界のことも、現状を見ると、疑問に思ったり気持ちが暗くなつたりすることが多い。そういうとき、最終的には、やはり教育という営み、若い人をどう育てていくのかということが希望だと思います。この映画ととても重なるところがありますね。

大嶋 鎌倉アカデミアは敗戦から間もないころ生まれました。そのときの日本はゼロからのスタートでした。だから「絶望」と言っていられない。逆に言うと、希望しか持ちえない時代でした。

三上次男の文章「種々く小さな集団」はこう締めくくられています。「アカデミアでの実験の結果は二十数年後の今日、はつきりと現れている。ここを通過した人々は、どの社会でも、信頼されるに足る重要な存在として、それぞれの職場で任務を果している。（中略）それは世俗的な出世とはまったく関係のない、大きく貴い価値である。その意味にお

いてアカデミアは決して消えうせてはいないし、過去のものでもない。そればかりか、アカデミア人がそれぞれの地で撒く種は、さらに多くの生命を新しく生み出しつつある」。

これを読むと、名利を捨てて日々を誠実に生きることこそ、人間の「希望」に結びつくような気がします。

三浦 最後に監督から一言お願いします。

大嶋 鎌倉アカデミア出身の方たちがスポッライトが当たった方は、いずみたく、前田武彦などごく一握りで、逆境にあつた方も多かったです。学校が潰れ、その後の就職でも苦勞したり、と。しかし皆さん、実に樂觀的、楽天的で、それはやはり鎌倉アカデミアのカラーではないかと思えます。

三浦 そうですね。

大嶋 三枝博音は閉校の際の「御挨拶」で相当ミゼラブルなことを書いていますけれど、学校自体は、金策に汲々としながらもお茶会やダンスパーティーなどのレクリエーションが盛んでした。鎌倉という土地柄もあり、皆さん、いろいろな娯楽を楽しんでいた。だから、苦しいことがあつても楽しむことを忘れないという心根が、この学校に集つた人たちにしみついているようです。これは人生においても大切なことじゃないでしょうか。「楽しい学園」を、皆さんもぜひ、それぞれのお仕事場で実現してほしいと思います。

三浦 春風社も二十年目に入り、これからも皆さんに喜んでいただけるような学術書をつくっていきたいと思っております。変わらぬご支援、お力添えいただければ幸いです。本日はありがとうございました。■

いてアカデミアは決して消えうせてはいないし、過去のものでもない。そればかりか、アカデミア人がそれぞれの地で撒く種は、さらに多くの生命を新しく生み出しつつある」。

これを読むと、名利を捨てて日々を誠実に生きることこそ、人間の「希望」に結びつくような気がします。

三浦 最後に監督から一言お願いします。

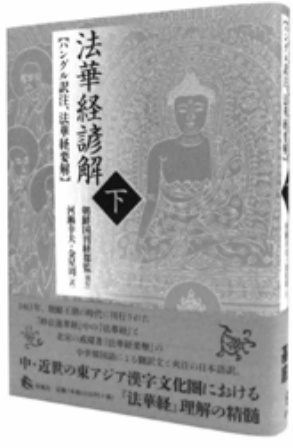
大嶋 鎌倉アカデミア出身の方たちがスポッライトが当たった方は、いずみたく、前田武彦などごく一握りで、逆境にあつた方も多かったです。学校が潰れ、その後の就職でも苦勞したり、と。しかし皆さん、実に樂觀的、楽天的で、それはやはり鎌倉アカデミアのカラーではないかと思えます。

三浦 そうですね。

大嶋 三枝博音は閉校の際の「御挨拶」で相当ミゼラブルなことを書いていますけれど、学校自体は、金策に汲々としながらもお茶会やダンスパーティーなどのレクリエーションが盛んでした。鎌倉という土地柄もあり、皆さん、いろいろな娯楽を楽しんでいた。だから、苦しいことがあつても楽しむことを忘れないという心根が、この学校に集つた人たちにしみついているようです。これは人生においても大切なことじゃないでしょうか。「楽しい学園」を、皆さんもぜひ、それぞれのお仕事場で実現してほしいと思います。

三浦 春風社も二十年目に入り、これからも皆さんに喜んでいただけるような学術書をつくっていきたいと思っております。変わらぬご支援、お力添えいただければ幸いです。本日はありがとうございました。■

哲学・思想・宗教



法華経諺解 下

【ハングル訳注・法華経要解】
河瀬幸夫・金星周 訳
朝鮮王朝の時代に刊行された『妙法蓮華経』中の『法華経』と北宋の戒環著『法華経要解』の中世韓国語による翻訳文と来注の日本語訳。中・近世の東アジア漢字文化圏における『法華経』理解の精髄。A5判上製・四三四頁 定価(6500円+税) ISBN 978-4-86110-577-7

人間形成としての教養

ハンガリー、フィンランド、日本におけるドイツ的理念の受容と将来展望
高橋輝暁 (獨協大学非常勤講師) 編
「教養」のあり方を、ドイツをはじめとする思想史や教育史、文化概念の問題から多角的に考察。天野貞祐の教養理念を手がかりに、グローバル化と多文化時代に人間性を養うこととの意義を論じる。
A5判並製・二三四頁 定価(2000円+税) ISBN 978-4-86110-596-8



律から密へ

晩年の慈雲尊者
秋山学 (筑波大学教授)
江戸時代の真言宗の高僧、慈雲はいかに『妙法蓮華経』を受容したのか。最晩年の直筆本『法華陀羅尼略解』をもとに慈雲の思想を再検討。慈雲における密教と顕教の合一を明らかにする。
A5判上製・三九八頁 定価(5500円+税) ISBN 978-4-86110-600-2



日々の風 長谷川宏

暮らしのなかの哲学

17 石牟礼道子の心根

寒さ厳しい冬の日、新聞紙上で石牟礼道子の訃報を目にし、追悼の意をこめてわが家の月例読書会のテキストに若き日の自伝風作品『椿の海の記』を取り上げた。
この本はわたしにとって四度目の読書だ。前の三回と同じく、読み終わって、共同体を生きた庶民の悲しさやゆたかさが胸にせまり、余韻が長く尾を引いた。毎回の読後感がこんなに変わらない本も珍らしい。ことばが作者の心の襞にやわらかく寄り添うよう、繊細に、丁寧に、つづられていることが大きいと思う。文の流れが詩的に高揚していくくだりになると、つい音読したくなる。作者がことばの響きをそれ自体にみずからの心情を託していると思えるからだ。
語られるのは、作者が少女時代を過ごした、九州の海辺の町、水俣の日々の暮らしだ。ただ、就学以前のこの少女はほかの子とも交流することがほとんどなく、いつもおとなの世界に一人ぼつんと入りこむように生きていた。そして、かの女のまわりのおとなの幾人もが、差別され、虐げられた人であるのが目を引

く。たとえば、精神を病み服を乱して近所を徘徊する少女の祖母、火葬場の隠亡の岩殿と頼者の徳松殿、淫売宿の娼婦たち、等々。
なにかしら周囲の冷たい視線にさらされるそうした人びとにたいして、少女は幼児に特有の無邪気な親しみの気持ちをもつて近づき、人びとからかわいがられる。そういうさまを回想する作者の筆が、かつての無邪気さをとどめて温かい。浮かび上がるのは近代以前の、村落共同体ふうの暮らしだが、読むうちに、ここにあるのは人として生きる生きかたの原型だ、という思いが萌してくる。
人の心の温もりと並んで強く印象づけられるのは、人びとの暮らしが自然と深く結びついていることだ。人びとは季節のめぐりに合わせて土に育つ草や木の実を取って食べ、海の魚や貝や海藻に舌鼓を打つ。
共同体の生活はたつぷりとした自然に包まれてあり、そのことよって生きるに値する輝きを放っている。石牟礼道子にとって、ものを書くことはそういう世界を生きることだった。(哲学者)

哲学断章—存在・ことば・光
北岡崇 (元福山女学院大学教授)
ことば、存在、愛、他者、死……学術論文や講演記録、対話体やエッセイ、アフォリズムなどさまざまなスタイルを採り、テキスト研究の自閉性を超えて思索を重ねた哲学の試み。
ISBN 978-4-86110-583-8 ¥3700

哲学はじめの二歩 楽しむ/働く
立正大学文学部哲学科 編
何をすれば楽しめるのだろうか? どうして働かないといけないのだろうか? 高校生・大学新入生のための哲学入門。
楽しむ ISBN 978-4-86110-541-8 二刷 ¥1500
働く ISBN 978-4-86110-542-5 二刷 ¥1500

人間形成としての教養
多文化共生の時代に、人間性を養うことの意味を問う
高橋 輝暁 編
ISBN 978-4-86110-596-8 ¥2700

律から密へ
晩年の慈雲尊者
秋山 学 著
ISBN 978-4-86110-600-2 ¥5500

朝鮮儒学の巨匠たち
韓亨祚著/片岡龍監・解説/朴福美訳
ISBN 978-4-86110-500-5 ¥5500

哲学者の挑戦
西日本哲学大 編
ISBN 978-4-86110-335-3 ¥2800

カント伝 マンフレッド・キューン 著/菅沢龍文 (法政大学教授・中澤武 (早稲田大学ほか非常勤講師)・山根雄一郎 (大東文化大学教授) 訳
新たな諸資料を多く取り上げ、生誕から最晩年に至るまでをたどる。通俗的なカント像を打ち破る最も詳細な伝記、待望の邦訳。
ISBN 978-4-86110-479-4 ¥4000

哲学はじめの二歩 楽しむ/働く
立正大学文学部哲学科 編
ISBN 978-4-86110-459-6 二刷 ¥3241

人間形成としての教養
多文化共生の時代に、人間性を養うことの意味を問う
高橋 輝暁 編
ISBN 978-4-86110-596-8 ¥2700

律から密へ
晩年の慈雲尊者
秋山 学 著
ISBN 978-4-86110-600-2 ¥5500

朝鮮儒学の巨匠たち
韓亨祚著/片岡龍監・解説/朴福美訳
ISBN 978-4-86110-500-5 ¥5500

哲学者の挑戦
西日本哲学大 編
ISBN 978-4-86110-335-3 ¥2800

カント伝 マンフレッド・キューン 著/菅沢龍文 (法政大学教授・中澤武 (早稲田大学ほか非常勤講師)・山根雄一郎 (大東文化大学教授) 訳
新たな諸資料を多く取り上げ、生誕から最晩年に至るまでをたどる。通俗的なカント像を打ち破る最も詳細な伝記、待望の邦訳。
ISBN 978-4-86110-479-4 ¥4000

哲学はじめの二歩 楽しむ/働く
立正大学文学部哲学科 編
ISBN 978-4-86110-459-6 二刷 ¥3241

人間形成としての教養
多文化共生の時代に、人間性を養うことの意味を問う
高橋 輝暁 編
ISBN 978-4-86110-596-8 ¥2700

律から密へ
晩年の慈雲尊者
秋山 学 著
ISBN 978-4-86110-600-2 ¥5500

朝鮮儒学の巨匠たち
韓亨祚著/片岡龍監・解説/朴福美訳
ISBN 978-4-86110-500-5 ¥5500

哲学者の挑戦
西日本哲学大 編
ISBN 978-4-86110-335-3 ¥2800

カント伝 マンフレッド・キューン 著/菅沢龍文 (法政大学教授・中澤武 (早稲田大学ほか非常勤講師)・山根雄一郎 (大東文化大学教授) 訳
新たな諸資料を多く取り上げ、生誕から最晩年に至るまでをたどる。通俗的なカント像を打ち破る最も詳細な伝記、待望の邦訳。
ISBN 978-4-86110-479-4 ¥4000

哲学はじめの二歩 楽しむ/働く
立正大学文学部哲学科 編
ISBN 978-4-86110-459-6 二刷 ¥3241

人間形成としての教養
多文化共生の時代に、人間性を養うことの意味を問う
高橋 輝暁 編
ISBN 978-4-86110-596-8 ¥2700

律から密へ
晩年の慈雲尊者
秋山 学 著
ISBN 978-4-86110-600-2 ¥5500

朝鮮儒学の巨匠たち
韓亨祚著/片岡龍監・解説/朴福美訳
ISBN 978-4-86110-500-5 ¥5500

哲学者の挑戦
西日本哲学大 編
ISBN 978-4-86110-335-3 ¥2800



アレゴリーで読むアメリカ文学

武田悠一 (元南山大学教授)
ポカホンタス物語から、ポロ、ホーソン、ヘミングウェイ、そして『羊たちの沈黙』まで——ジェンダーとゴシックの観点からアメリカ文学を読みなおし、排除と抑圧の構造を明らかにする。
四六判上製・四五二頁 定価(3500円+税)
ISBN 978-4-86110-569-2

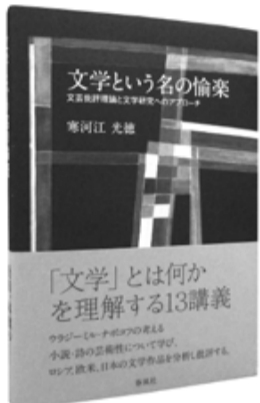


外見の修辞学

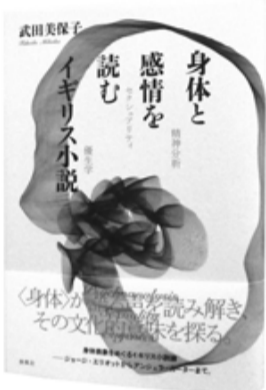
一九世紀末アメリカ文学と人の「見た目」を巡る諸言説
福井崇史 (國學院大学准教授)
「見た目」から「中身」が判断できるのか？ 頭蓋、顔貌、衣服、肌の色といった人の外面的要素にさまざまな意味を付与し、あるいは政治化して表象した文学作品を読み解く。
四六判上製・三六八頁 定価(4000円+税)
ISBN 978-4-86110-581-4



グロテスク・美のイメージ
ドムス・アウレア、ピラネージからフロベールまで
武末祐子 (西南学院大学教授)
ルネサンス期に発掘されたネロ帝の黄金宮からピラネージの廢墟画を経て、19世紀フランス主義文学へ。建築から美術、文学へと横断し、洞窟(グロッタ)に始まるグロテスクの美をたどる。
四六判上製・二九六頁 定価(3200円+税)
ISBN 978-4-86110-588-3



文学という名の愉楽
寒河江光徳 (創価大学教授)
「文学」とは何かを理解する13講義。
ウラジミール・ナボコフの考える小説・詩の芸術性について学び、ロシア、欧米、日本の文学作品を分析し批評する。カルヴィーノや村上春樹についてのコラムも。
四六判並製・二六八頁 定価(2200円+税)
ISBN 978-4-86110-595-1



身体と感情を読む
イギリス小説
武田美保子 (京都女子大学名誉教授)
ジョージ・エリオットからアンジェラ・カーターまで——身体/感情の二項対立を超え、両者の複雑な関係を文学作品の中に読む。身体表象をめぐるイギリス小説論！
四六判上製・二六六頁 定価(2700円+税)
ISBN 978-4-86110-582-1



中世英語文学III
中世イギリスロマンス ガウエイン卿と緑の騎士
菊池清明 (元立教大学教授 訳)
14世紀に成立した中世イギリスロマンスの新訳。多彩で変化に富んだ原文が格調高い日本語でよみがえる。
ISBN 978-4-86110-579-1 ¥3400

文学とアダプテーション——ヨーロッパの文化的変容 小川公代 (上智大学准教授・村田真一 (上智大学教授・吉村和明 (上智大学教授 編)
文学から映画へ、ミュージカルへ、漫画へ、オペラへ。再創造としてのアダプテーションがもつ豊かな可能性を明らかにする。
ISBN 978-4-86110-559-3 ¥3200

世紀末の長い黄昏——H・G・ウェルズ試論 宗洋 (高知大学准教授)
一九世紀末イギリス、科学技術教育の普及によって登場した「観察者としての読者」は、どのように小説を読んだのか？ ウェルズの作品を(観察)という新しい視点から読み解く。
ISBN 978-4-86110-550-0 ¥2700

松本清張の葉脈 南富嶺 (静岡大学教授)
巨大なエネルギーの集合体である清張文学を一本の樹になぞらえ、主要な特徴を提示する。葉脈とは清張が好んで使う用語で、点と点をつなぐ線の意味にもなる。
ISBN 978-4-86110-557-9 ¥2700

キャサリン・マンスフィールド——荒地を吹き渡る風のように自由！
手塚裕子 (川村学園女子大学名誉教授)
祖国ニュージーランドを捨て各地を漂泊しながら、三四歳で夭逝した女性作家。その波乱に満ちた生涯を克明に描き出す。
ISBN 978-4-86110-553-1 ¥2200

文学都市ダブリン——ゆかりの文学者たち 木村正俊 (神奈川県立外語短期大学名誉教授 編)
スウィフト、ワイルド、ジョイスから現在の作家まで、作品を生み出す土壌となった都市ダブリンとの関係に注目しながら、文学者たちの足跡をたどる。
ISBN 978-4-86110-518-0 ¥3700

カポテーティ小説の詩的特質——音と文彩 大園弘 (九州国際大学教授)
名作家カポテーティの詩的特質とはいかなるものか？ 短編、中編小説を対象に多数の事例を抽出。韻と律、直喩、隠喩、その他のレトリックと詩的效果を考察する。
ISBN 978-4-86110-521-0 ¥2200

バルザックの文学とジェンダー——女性作家との比較から分かること 東辰之介 (駒澤大学准教授)
バルザックはフェミニニスト、それともアンチ・フェミニニスト？ 同時代の女性作家の作品と比較検討し、文学の豊かさの総体に迫る。
ISBN 978-4-86110-533-3 ¥2600

スコットランド——一八〇三年——ワーズワス兄妹とコーリッジの旅 安藤潔 (関東学院大学教授)
詩人ワーズワスの妹ドロシーの「旅行記」やコーリッジのノートブックを資料に、現地へも赴き三人の足取りを詳細にたどる。
ISBN 978-4-86110-529-6 ¥2700

AUTHOR

自著を語る

池田昭光
『流れをよそおう
レバノンにおける相互行為の人類学』



子どものころから世界の国々のことを知ることが好きでした。文化人類学を専攻し、博士課程在籍中にフィールドを選ぶ際、エジプト・シリアなどを含めた中東諸国を回り、その中からレバノン共和国を選びました。

レバノンはイスラーム教徒、キリスト教徒などさまざまな宗教・宗派が混在し、政治的にも宗派主義という制度をとる国です。当初は小学校に通ってスンナ派イスラーム教育の調査をしていたのですが、調査を続けるうち、「スンナ派」あるいは「イスラーム」という区切りが意味あるものなのかわからなくなってきました。

レバノンの人びとは、宗派の存在や宗派間の違いに関心をもちながらも、その境界があらわになることを避けるように見えました。調査者である私が宗派を前提にした質問をすると、「違いなどありません」と顔をそむけられてしまう。フィールド調査を行う者は多かれ少なかれ、自分が抱いていた考えが裏切られる経験をするものだと思いますが、私の研究は特に、その挫折と探求のプロセス自体が前面に出ているものです。

博士論文を書籍化するにあたり、一つの章を大きく書き換えました。調査地での私の隣人でもある男性が、古着をあげようと言ってきた男性に向けて手紙を書き、人を遣わせたものの、結局古着は得られなかった……これをどう考えるべきか、論文の提出後もずっと気にかかっていた事例です。改稿の過程で出合った先行研究をヒントに、本書では現在の自分にできるだけのことをしたと思います。

私にとって人類学とは、目の前にあるものを理解できるようにする学問です。大事なものを、理解するのが難しいものは向こうからやってきて、私たちの目の前にある。それらをいかに見逃さないか。そして、自分で経験するだけでなく、いかに他人に伝えるかが大切なことだと思います。

現在は、レバノン社会についての研究を続ける一方で、美術や映画など、さらに広く言えば「見ること」に関心をもっています。

(12頁に本の紹介)

帝国と文化―シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで 江藤秀一(筑波大学名誉教授)編 シェイクスピア、ネグリの戯曲、サイバーパンク映画、長崎の南蛮文化:「帝国」概念を鍵に、領域を越えて広がる文化の諸相を探る。 ISBN 978-4-86110-517-3 ¥3500	幻想と怪奇の英文学II―増殖進化編 東雅夫・下楠昌哉 責任編集 ISBN 978-4-86110-516-6 ¥2200	幻想と怪奇の英文学 東雅夫(フロンティア評論家)、下楠昌哉(同志社大学教授)編 ISBN 978-4-86110-404-6 二刷 ¥2700	異文化理解とバフォーマンス―Border Crossers 松田幸子、笹山敬輔、姚紅 編著 ISBN 978-4-86110-499-2 ¥4500	パブリック圏としてのイギリス演劇―シェイクスピアの時代の民衆とドラマ 中村友紀 ISBN 978-4-86110-501-2 ¥3000	ペーター・フーヘル―現代詩への軌跡 土屋洋一(元愛知大学教授) ISBN 978-4-86110-481-7 ¥2200	フィリップ・ラーキン―愛と詩の生涯 高野正夫(駒澤大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-477-0 ¥2200	T・S・エリオットの詩を解説する 滝沢博(高岡法科大学教授) ISBN 978-4-86110-476-3 ¥2200	「女の子」という運動―ワイマール共和国末期のモダンガール 田丸理砂(フェリス学院大学教授) ISBN 978-4-86110-443-5 ¥2000	神奈川ゆかりの作家たち 最賀進(SAGAハウス代表) ISBN 978-4-86110-462-6 二刷 ¥1500	フロント小説における病いと看護 川崎明子(駒澤大学准教授) ISBN 978-4-86110-427-5 ¥3500	敗戦・憂国・東京オリンピック―三島由紀夫と戦後日本 洪潤杓(誠信女子大学校助教授) ISBN 978-4-86110-463-3 ¥3000	美しき汚れ―アース・マンビーとウィクトリア朝期女性労働者の表象 吉本和弘(県立広島大学教授) ISBN 978-4-86110-442-8 ¥3000	中世英語英文学II―The Sound of Literature 菊池清明(元立教大学教授) ※本文英語 ISBN 978-4-86110-488-6 ¥7500	中世英語英文学―その言語・文化の特質 菊池清明(元立教大学教授) ISBN 978-4-86110-428-2 ¥4500	秘密のラティガン―戦後英国演劇のなかのトランス・メディア空間 大谷伴子(東京学芸大学講師) ISBN 978-4-86110-448-0 二刷 ¥2700	マーガレット・オブ・ヨークの「世紀の結婚」―英国史劇とブルゴーニュ公国 大谷伴子 ISBN 978-4-86110-419-0 二刷 ¥2700	交錯する戦争の記憶―占領空間の文学 黄益九(在日コリアン研究所) ISBN 978-4-86110-422-0 ¥3300	名譽革命とイギリス文学―新しい言説空間の誕生 富樫剛(フェリス学院大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-412-1 ¥3000	ジョージ・エリオットの異文化世界 高野秀夫(駒澤大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-395-7 ¥3333	トルストイと生きる 藤沼賢(早稲田大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-385-8 ¥4762	戸籍の謎と丸谷才一 ソーントン 不破直子(日本女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-381-0 ¥1800	乱歩彷徨―なぜ読み継がれるのか 紀田順一郎(評論家・作家) ISBN 978-4-86110-284-4 二刷 ¥1905	作品は「作者」を語る―アラビアン・ナイトから丸谷才一まで ソーントン 不破直子・内山加奈枝 編著 ISBN 978-4-86110-292-9 ¥2857	朝鮮神話の源流―「ハリ公主神話」と「タンクン神話」を巡って 金香淑(目白大学准教授) ISBN 978-4-86110-313-1 ¥4500	原典対照『ノーオウルフ』読解 長谷川寛(元日本大学教授) ISBN 978-4-86110-230-1 ¥9000	イギリス イメージ横断―表象と文学 要田圭治・田原光広・吉本和弘 編 ISBN 978-4-86110-278-3 ¥3333	永井荷風 ソライズムの射程―初期作品をめぐって 林信蔵(立命館大学特別研究員) ISBN 978-4-86110-222-6 ¥3619	名刀中条スハババン!!! 中条省平(学院院大学教授) ISBN 4-921146-90-X ¥2800	アントニオ・タフッキ 反復の詩学 花本知子(京都外国語大学准教授) ISBN 978-4-86110-358-2 ¥3000	Beowulf 橋本修一(千葉工業大学教授) ISBN 4-86110-060-7 ¥2000	カズオ・イシグロ―《日本》と《イギリス》の間から 莊中孝之(京都外国語短期大学教授) ISBN 978-4-86110-255-4 三刷 ¥3000	『ノーオウルフ』とその周辺―忍足欣四郎先生追悼論文集 唐澤一友(駒澤大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-190-8 ¥8000	なぜ男は笹野種子を喪れるのか 海老原暁子(元立教文学院短期大学教授) ISBN 978-4-86110-318-6 ¥2381	樋口葉―物語論・言語行為論・ジェンダー 笹川洋子(神戸親和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-348-3 ¥4000	ほくの交遊録 岡井隆(歌人) ISBN 4-86110-044-5 ¥2800	ラファティオ・ハーンとジェイムズ・トムソン―『四季』をめぐって 先川暢郎(拓殖大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-285-1 ¥3333	新版文学にひそむ十字架 小出龍太郎(元大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 978-4-86110-354-4 ¥2800	小出龍重と谷崎潤一郎―小説「夢喰ふ虫」の真相 小出龍太郎・明里千章・荒川朋子 ISBN 4-86110-084-4 ¥2500	小出龍重―光の憂鬱 小出龍太郎(元大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 4-921146-34-9 ¥2200	ちよつと、教養―20代女性のための芸術案内 小出龍太郎(元大阪芸術大学短期大学教授) ISBN 4-86110-008-9 ¥1600	民話の森の歩きかた 樋口淳(専修大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-273-8 ¥2381	テクストの思考―日本近現代文学を読む 林浩平(詩人・恵泉女学園大学特任教授) ISBN 978-4-86110-253-0 ¥3048	ヘンリー・フィールディング伝 澤田孝史(東京国際大学教授) ISBN 978-4-86110-231-8 ¥4286	オーウェル文学の源流を求めて―その想像的創造力の源泉 高橋鍾(宮崎大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-170-0 ¥2800	Essays on Dickens, Forster, Austen: A Japanese Reader's Appreciation 藤田永祐(獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-388-9 ¥3000	ディケンズ、フォスター、オースティン―いまに生きるイギリス小説 藤田永祐(獨協大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-154-0 ¥2200	平家物語―装置としての古典 高木信(相模女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-139-7 ¥4600	英詩に魅せられ―エリオットからラーキンまで 堀田三郎・犬飼誠 共編 ISBN 978-4-86110-305-6 ¥2476	Decoding Paul Muldoon: Poetics and Politics 奥田良一(東海大学教授) ISBN 978-4-86110-176-2 ¥2500	荒野へ―鮎川信夫と「新領土」(I) 中井辰(同志社大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-096-3 ¥9333	こんにはちエホフ―三つの短編を訪ねる 村手義治(元創価大学教授) 編訳 ISBN 978-4-86110-279-0 ¥2000	龍の星霜―異端の劇作家青江舜二郎 大嶋拓(映画作家) ISBN 978-4-86110-274-5 ¥1500	法隆寺 青江舜二郎(劇作家) ISBN 978-4-86110-225-7 ¥2800	鷗外・漱石―ラディカリズムの起源 大石直記(明治大学教授) ISBN 978-4-86110-175-5 ¥5600	平家物語―装置としての古典 高木信(相模女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-139-7 ¥4600	英詩に魅せられ―エリオットからラーキンまで 堀田三郎・犬飼誠 共編 ISBN 978-4-86110-305-6 ¥2476	Decoding Paul Muldoon: Poetics and Politics 奥田良一(東海大学教授) ISBN 978-4-86110-176-2 ¥2500	荒野へ―鮎川信夫と「新領土」(I) 中井辰(同志社大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-096-3 ¥9333	こんにはちエホフ―三つの短編を訪ねる 村手義治(元創価大学教授) 編訳 ISBN 978-4-86110-279-0 ¥2000	龍の星霜―異端の劇作家青江舜二郎 大嶋拓(映画作家) ISBN 978-4-86110-274-5 ¥1500	法隆寺 青江舜二郎(劇作家) ISBN 978-4-86110-225-7 ¥2800	鷗外・漱石―ラディカリズムの起源 大石直記(明治大学教授) ISBN 978-4-86110-175-5 ¥5600
--	--	--	--	---	--	---	---	---	--	--	---	--	--	---	---	---	---	--	--	---	---	---	---	--	---	---	---	---	--	---	--	---	---	---	---	---	---	--	---	---	--	---	--	--	--	---	---	--	---	---	--	---	---	--	---	--	---	---	--	---	---	--

翻訳ピンチ!

中条省平 SHOHEI CHUJO

21

固有名詞を訳す? (続)

前回の続きで、マンディアルグの短編「催眠術師」に出てくる Quatre Cents Lapins (カトル・サン・ラパン) という酒場の話です。「400羽の兎」の意で、アステカ神話では酒の神の名前なのです。

ここからフランス語ですぐに連想するのは faire les quatre cents coups (‘400発をおこなう’) という表現で、これは「(子供の)素行が悪い」ことを表す慣用句です。

で、あるフランス小説の邦訳に、主人公が日本に来て『400発』の絵葉書を買うという一節があったのですが、この Les Quatre Cents Coups とは、素行の悪い子供が主人公の映画、トリュフォー監督の『大人は判ってくれない』の原題なのですね。邦訳者はそのことを知らず、直訳してしまったわけです。

これに類する誤りでは、別の小説の邦訳に『天国の子供たち』という映画が出てきましたが、これはもちろん『天井桟敷の人々』のことです。

話を元に戻すと、フランス語には coup de lapin (兎の一発) という慣用句もあって、これは「うなじへの一撃、致命的な手刀」を意味します。

というわけで、faire les quatre cents

coups~coup de lapin~quatre cents lapins という言語的な連想の回路が生じるのですね。

つまり、マンディアルグの「400羽の兎」という酒場の名前には、童話的なウサちゃんイメージではなく、放埒な生活とか暴力的な危うさがまわりつくわけですね。そのため、水夫や商売女がたむろする港町の場末のいかがわしい酒場にぴったりの名前ということになるのでしょう。

それで、この酒場の名前を日本語訳でどうするかという問題になります。『不思議の国のアリス』に出てくる「三月ウサギ」は英語で「狂った人」を意味しますし、月にもやはり狂気の含意があるので、「三月兎亭」という屋号はいかがでしょう?あるいは「脱泥泥酔屋」とか、「酒亭いなばの黒うさぎ」とか?……やっぱりダメですね。

(仏文学者)



イラスト: たけなみゆうこ

文学

バルザック王国の裏庭から―リュジェリーの「秘密」と他の作品集 宇多直久(元滋賀大学講師) 編訳 バルザックの歴史小説「リュジェリーの秘密」の新訳と、この小説に至る私信、小品、断片等を執筆順に収録。 ISBN 978-4-86110-544-9 ¥2500	画文集 旅の貼り絵 安田彰(元亜細亜大学教授) ISBN 978-4-86110-546-3 ¥1750	八月の瓜―母へ 彭学明著/立松昇一(拓殖大学教授)・舟山優士(翻訳家) 訳 ISBN 978-4-86110-520-3 ¥2500	鎌倉三猫『またたび』 ソーントン 不破直子(日本女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-515-9 ¥1500	クリスマス・キャロル チャールズ・ディケンズ著/井原慶一郎(鹿児島大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-474-9 ¥1500	エルビー・メルゲンと七つの太陽―モンゴルのいついたえ集 塩谷茂樹編訳/Ya・パターハンド・ロナム執筆 ISBN 978-4-86110-338-4 ¥1600	スウェーデン民話名作集 数下紘一 訳 I ISBN 978-4-86110-246-2 Ⅲ ISBN 978-4-86110-339-1 Ⅳ ISBN 978-4-86110-368-1 各巻 ¥1905	一人の詩人と二人の画家―D.H.ロレンスとニューメキンコK.メリル著/木村公一・倉田雅美・伊藤淳子 訳 ISBN 978-4-86110-498-5 ¥4100	いなにも偶然だった男 パトリス・ルコント著/桑原隆行(福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-458-9 二刷 ¥1800	愉しみは最後に パトリス・ルコント、ダヴィッド・テカンヴェイル著/桑原隆行(福岡大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-418-3 ¥1800	エドワード・トマス訳詩集 吉川朗子(神戸市外国語大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-429-9 ¥2000	鎌倉三猫物語 ソーントン 不破直子(日本女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-430-5 ¥1500	ヒースの丘から―友、旅、暮らさる歳時記 山口弘恵(武蔵野大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-186-1 ¥1800
--	--	---	--	--	---	--	--	---	--	--	--	--

写真・音楽・芸術

浅草 2011.2.27 - 六区ブロードウェイ
本人の肖像 初沢克利 (写真家)
変わりゆく浅草の風景と人々。巷にはびこる
まやかしの価値観は通用しない。この街には、
日本人の抱えている本質的矛盾がいかなるも
のかの一端が見える。荒俣宏氏ほか推薦！
ISBN 978-4-86110-547-0 ¥7000



糸みち
吉住小三代 (長閑三味線方)
ISBN 978-4-86110-562-3 ¥1852
茶艶―我が師有馬頼底宛下小堀宗慶御家元
堀江湛子 (茶人)
ISBN 978-4-86110-567-8 ¥3500

石巻片影
三浦衛 (春風社代表 著・橋本照嵩 (写真家) 写真)
ISBN 978-4-86110-530-2 ¥2500

石巻 2011.3.27 - 2014.5.29
橋本照嵩 (写真家)
ISBN 978-4-86110-414-5 ¥4500

【新版】北上川
橋本照嵩 (写真家)
ISBN 978-4-86110-441-1 ¥3500

表象の京都―日本映画史における観光都市の
イメージ 須川まり (追手門学院大学特任助教)
ISBN 978-4-86110-537-1 ¥3000

「出会い」という名の劇場―演劇に生きて
岡田正子 (演出家・翻訳家)
ISBN 978-4-86110-551-7 ¥2100

母のアルバム
伊藤政子・田中典子 (清泉女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-523-4 ¥1800

父のアルバム
伊藤政子・田中典子 (清泉女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-467-1 ¥1800

利根川を往く
堀絏 (写真家) 撮影
ISBN 978-4-86110-503-6 ¥4800

アンドレ・バサン―映画を信じた男
野崎敏 (東京大学教授)
ISBN 978-4-86110-456-5 ¥2300

物語らないアニメーション―ノーマン・マツラ
リンの不思議な世界 栗原詩子 (西南学院大学
准教授) ISBN 978-4-86110-493-0 ¥3500

増補改訂版としての身体―土方巽・暗黒舞
踏技法へのアプローチ 三上賀代 (京都精華大
学教授) ISBN 978-4-86110-465-7 ¥3600

フアン・メンデルスゾーン・セルゲル ウテ・
ビュヒター・レーマー 著 宮原勇/米澤孝子
訳 ISBN 978-4-86110-421-3 ¥2300

長閑の世界へようこそ―読んで味わう、長閑
入門 細谷朋子 (研究者)
ISBN 978-4-86110-400-8 一刷 ¥3400

映画はやめる―パトリス・ルコント、自作を語
る P・ルコント 著/H・プロロンジヨ聞き
手/桑原隆行訳 ISBN 978-4-86110-433-6 ¥3800

クニラ解体
小関与四郎 (写真家)
ISBN 978-4-86110-261-5 ¥15000

フェルナン・レジェ オブジェと色彩のユートピ
ア―キュビズムからフランス人民戦線まで
山本友紀 ISBN 978-4-86110-405-3 ¥4500

かぼちゃの下で―ウガンダ戦争を生きる子と
もたち 桜木奈央子 (写真家) 写真・文/伊藤
氏貴解説 ISBN 978-4-86110-259-2 ¥1800

世界写真紀行―美しい自然と文化を訪ねて
〔海外編・国内編〕 渋谷興一
ISBN 978-4-86110-409-1 ¥3500

ドアの映画史―細部からの見方、技法のリテ
ラシー 吉田隆 (京都産業大学教授)
ISBN 978-4-86110-264-6 ¥1800

深読み映画論―『暗い日曜日』の記憶
大野真 (大妻女子大学教授)
ISBN 978-4-86110-198-4 ¥1905

ただしいジャズ入門
中条吾平 (学習院大学教授)
ISBN 4-86110-057-7 ¥1600

アンヘリカの選抜
丸岡永乃 (画家・詩人)
ISBN 978-4-86110-337-7 ¥800

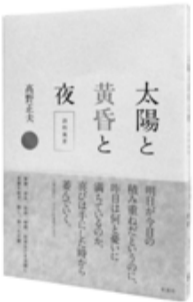
ハラに染みるぜ！天才ジャズ本
安原顯 (スパーエディター)
ISBN 4-921146-62-4 ¥2800

フランス・ミュージカルへの招待
渡辺諒 (早稲田大学教授)
ISBN 978-4-86110-344-5 ¥2000

邦訳「ガリヴァー旅行記」書誌目録
松菱多津男 (芸社会長)
ISBN 978-4-86110-276-9 ¥4600

OTHER VOICES 東大全共闘・68―70
平沢豊 (編集者)
ISBN 4-86110-026-7 ¥2800

太陽と黄昏と夜 詩的風景
高野正夫 (駒澤大学名誉教授)
明日が今日の積み重ねだといふのに、昨日
は何と愛に満ちているのか。―青春、老
年、生命、時間、記憶などを主題に言葉を紡
ぎ、詠った37篇。
ISBN 978-4-86110-589-0 ¥1800



小作人とアザラシ女―スコットランドのいい
つたえ ジュディ・ハミルトン 著/先川暢郎・
橋本修一 訳 ISBN 978-4-86110-408-4 ¥1500

ここのボトラック
大竹昭子 (作家) 編
ISBN 978-4-86110-310-0 ¥1800

クリス・ホルティック選コミック短編小説集
石塚則子 (同志社大学教授) 他 編訳
ISBN 978-4-86110-298-1 ¥3500

お爺ちゃんとお婆
オタ・フィリップ 著/北岡武司 (岡山大学名誉
教授) 訳 ISBN 978-4-86110-446-6 ¥2500

人生の請求書
石橋幸子 (春風社専務)
ISBN 978-4-86110-410-7 ¥1300

カフェの女主人
レイモン・ジャン 著/桑原隆行 (福岡大学教授) 訳
ISBN 978-4-86110-356-8 ¥2200

モーツァルトの息子
ジャック・トゥルニエ 著/高井道夫 (元上智
大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-242-4 ¥2200

バリの小鳥売り
ロベール・ブラジャック 著/高井道夫 (元上
智大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-250-9 ¥2200

リヴァ・ベラ パトリス・ルコント 著/桑原
隆行 (福岡大学教授) 訳
ISBN 978-4-86110-280-6 ¥1905

シヨトカットの女たち パトリス・ルコン
ト 著/桑原隆行 (福岡大学教授) 訳
ISBN 978-4-86110-277-6 ¥2000

二つの季節
松永澄夫 (東京大学名誉教授)
秋、都会の公園。日々悩み、迷いながら生き
る若い男女の心情が、公園の池畔でゆっくり
交差する―哲学者が抒情的な散文・詩で奏
する、生への讃歌。
ISBN 978-4-86110-601-9 ¥1000



風の想い―奈津
松永澄夫 (東京大学名誉教授)
ISBN 978-4-86110-378-0 ¥1500

カメレオン
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-473-2 ¥2200

空にあがったハイエナ―ケニア・キクユの民話
集 杜由木
ISBN 978-4-86110-301-8 ¥1600

カレワラ物語―フィンランドの国民叙事詩
キルステイ・マキネン 著/荒牧和子 訳
ISBN 4-86110-034-8 ¥1800

愛の叙事詩 バルタイヤン物語 ミシエル・ゼ
ヴァコ 著/鈴木悌男 (神戸松蔭女子学院大学名誉
教授) 訳 ISBN 978-4-86110-223-3 ¥2800

横浜の時を旅する―ホテルニューグランドの
魔法 山崎洋子 (作家)
ISBN 978-4-86110-296-7 三刷 ¥1600

みらいのゆぐすき
しりあがり寿 (漫画家)
ISBN 978-4-86110-294-3 ¥1600

マハーヴァキナまたは巫山の夢
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-342-1 ¥1957

父のふるさと―秋田往来
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-243-1 ¥1905

出版は風まかせ―おとぼけ社長奮闘記
三浦衛 (春風社代表)
ISBN 978-4-86110-193-9 ¥1300

ヨコハマ ヨコスカ 暮末 ハリ
飯島耕一 (詩人)
ISBN 4-86110-040-2 ¥2800

気がつけばアメリカ人―二つの祖国に生きて
蒲生靖子
ISBN 978-4-86110-392-6 ¥1500

赤いレトロな焙煎機―遙かなる南米大陸をめ
ざして 玉川裕子 (フジリ民族文化研究センター
研究員) ISBN 978-4-86110-495-4 ¥1500

詩集 輪郭のない自画像
木端美人
ISBN 978-4-86110-457-2 ¥2300

テテムシ 新美南吉詩歌集
石川勝治 (長崎県立大学名誉教授)・斎藤卓志 (民
俗学者) 編 ISBN 978-4-86110-406-0 ¥1800

谷川健一全歌集
谷川健一 (民俗学者・歌人)
ISBN 978-4-86110-104-5 ¥3800

邂逅
岩田澄江
ISBN 978-4-86110-324-7 ¥952

詩集 獲のマンマン
ジャンのほろ
ISBN 978-4-86110-270-7 ¥1300

しりあがり寿 mini 大河 20 無血開城



山岡鉄舟が勝をとめた。
慶應四年三月二三日江戸田町薩摩藩蔵屋敷、
幕府の勝海舟と官軍の西郷南洲の、
江戸が戦火にまきこまれるかどうかの瀬戸際
の談判であった。

「いやしくも徳川の代表が先に部
屋でまたされるなどあつてはなり
ませぬ」
「うむ」

確かに会談を前に下に出る(こ)もあるまい、
こは相手を待たせてやろう。
ふと見ると部屋の反対側でも同じようなこと
がおきているらしい。
見えのある西郷の巨体が一度はひょこりと

姿を現したがまたひっこんだ。
こうして幕府、官軍、どちらが先に部屋に入
るかお互いの様子をうかがいながら
緊張が続いた。
幕府か官軍か、勝か西郷か。
その時静寂を破るように小さく「ブツ」と音
がした。
西郷の大きな声が聞こえる。

「わっはっは、これは失礼しもう
した。おいどんのケツのカギがは
ずれもした」
「おケツ解錠」
「オケツカイジヨウ」
「無血開城！」

天下の偉業、江戸無血開城がなった瞬間であ
った。

立教大学人文叢書

- 1 人文資料学の現在―浦野聡他 編著 ISBN 4-86110-063-1 ¥2200
2 文学の基礎レッスン―後藤和彦 編著 ISBN 4-86110-087-9 ¥2200
3 肖像と個性―藤巻明他 編著 ISBN 978-4-86110-138-0 ¥2200
4 人文資料学の現在II―菅谷憲興 編 ISBN 978-4-86110-163-2 ¥2200
5 書簡を読む―桑瀬章一郎 編 ISBN 978-4-86110-194-6 ¥2200
古代文字史料の中心性と周縁性 立教大学東アジア地域環境問題研究所／深津行徳・浦野聡 編著 ISBN 4-86110-067-4 ¥3500

観光・環境 自然・健康

- 突撃！よこはま村の1000人―自転車記者が行く 佐藤将人(神奈川県新聞記者) 編 ISBN 978-4-86110-316-2 ¥1500
瀬戸内、鳥瞰の旅―風景の奥を読む 伊藤松雄(四国学院大学教授) ISBN 978-4-86110-360-5 ¥1800
観光地の賞味期限―「暮らしと観光」の文化論 古池嘉和(富山大学教授) ISBN 978-4-86110-120-5 ¥1800
おばさんハトナム留学記 中嶋弘子 ISBN 978-4-86110-297-4 ¥1500
おばあちゃん！豚となつて木に登る 外川洋子 ISBN 978-4-86110-398-8 ¥1500
富士山学への招待―NPOが富士山と地域を救う 渡辺豊博(元都留文科大教授) ISBN 978-4-86110-229-5 ¥1500

横浜市立大学新叢書

- 世界のミュージカル・日本のミュージカル 岩崎徹(横浜市立大学准教授)・渡辺諒(早稲田大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-570-8 ¥2500
海外ミュージカルと日本のミュージカル双方の歴史をひもとぎ、作品の発展と変容、またその可能性について考察する。
資料を見て考えるホロコーストの歴史 ヴァンゼー会議記念館 編著／山根徹也・清水雅大 訳 ISBN 978-4-86110-461-9 ¥2000
韓国の財政と地方財政 鞠重輔(横浜市立大学教授) ISBN 978-4-86110-460-2 ¥3000
レリギオ―「宗教」の起源と変容 三上真司(横浜市立大学教授) ISBN 978-4-86110-452-7 ¥3000
日中間戦争と中国人文学者―郁達夫、柯靈、陸蠡らめぐって 鈴木正夫(横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-411-4 ¥3500
天狼俳句の英訳―誓子・敏雄・綾子 古平隆(横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-384-1 ¥3000
過去の再演を越えて―精神的分析的ロール・プレイング 川幡政道(横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-374-2 ¥3000
読んで愉しむイギリス文学史入門 白井義昭(横浜市立大学名誉教授、立正大学教授) ISBN 978-4-86110-372-8 三刷 ¥1500
普仏戦争―籠城のバリ132日 松井道昭(横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-373-5 ¥3000
失敗しないNPO―グラウンドワーク三島の20年とイギリスに学ぶ 渡辺豊博(元都留文科大教授) 編著 ISBN 978-4-86110-353-7 ¥1500
三島のジャンボさん―ミスター・グラウンドワーク 渡辺豊博(元都留文科大教授) ISBN 978-4-86110-233-2 ¥1429
世界遺産の自然と暮らし 今井一郎(関西学院大学教授) ISBN 4-921146-98-5 ¥1905
英和の森の植物たち―感じる、遊ぶ、食べる 中池敏之・川崎末美(東洋英和女学院大学教授) ISBN 978-4-86110-321-6 ¥2600
コハタンの繁殖―絶滅危惧種保存への挑戦 石川文也(日本鳥学会会員) ISBN 978-4-86110-195-3 ¥2800

東洋英和女学院大学 社会科学研究叢書

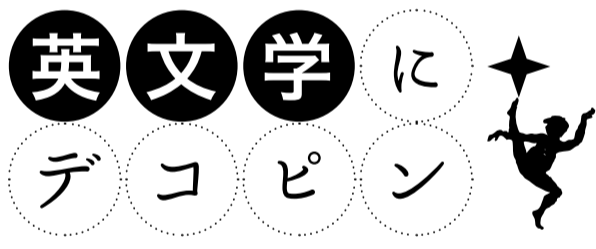
- 世界のメディア グローバル時代における多様性 小寺敦之(東洋英和女学院大学准教授) 編 アメリカ、中国からカタル、ラオスまで。世界各国の新聞、テレビ、インターネットなどにおける報道の在り方を紹介・解説。 ISBN 978-4-86110-591-3 ¥2500
アジアの国際関係 移行期の地域秩序 福田保(東洋英和女学院大学准教授) 編 中国、北朝鮮、台湾、インドなど、覇権国と追随国との間に見られる「連合と抵抗の力学」を探り、アジアにおける秩序の移行と変容の諸相を明らかにする。 ISBN 978-4-86110-590-6 ¥2500
新時代のやさしいトラウマ治療―NLP、マインドフルネス・トレーニング、EFT、EMDR、動作法の招待 岡本浩一・角藤比呂志 編 最新の臨床心理学の成果をもとに、PTSDに対するトラウマ治療の手法を誰でも模倣できる形で提示・実演。 ISBN 978-4-86110-545-6 ¥2500
EU統合を読む―現代ヨーロッパを理解するための基礎 小久保康之 編 ISBN 978-4-86110-483-1 ¥2500
ネット空間を変えるモバイル社会 東洋英和女学院大学メディア・コミュニケーション研究所 編 ISBN 978-4-86110-444-2 ¥2500
グローバリゼーションとリスク社会 岡本浩一・パトリシア・スイッヘル 編 ISBN 978-4-86110-403-9 ¥2500



心理

- 自由と尊厳を超えて B・F・スキナー 著／山形浩生 訳 ISBN 978-4-86110-341-4 一刷 ¥2381
デイケアの心理学 浮田徹嗣(横浜市立大学准教授) ISBN 978-4-86110-306-3 ¥3000
環境心理学―環境デザインへのパースペクティブ 植光(実践女子大学教授) ISBN 4-86110-010-0 一版一刷 ¥2286
ロール・プレイング―即興劇による人間の探求と治療 川幡政道(横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-155-7 ¥2381
見捨てられる不安―家族と社会の現在 川幡政道(横浜市立大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-158-8 ¥2200
魂のかけら―ある物理学者の神秘体験 佐川邦夫 ISBN 978-4-86110-095-6 ¥1800

阿部公彦



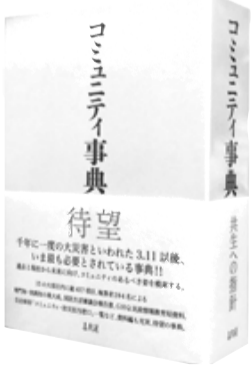
8 ワーズワスとスコットランド娘たち

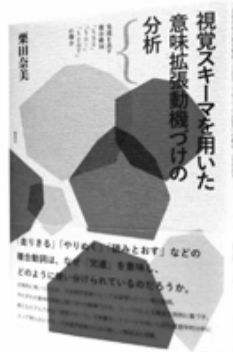
英詩人ワーズワスには、スコットランド旅行を題材にした作品がいくつかある。中でも有名なのは、「The Solitary Reaper」(山内久明訳では「ひとり妻刈りに勤む乙女」)。谷間に妻を刈りながら歌う娘がいる。詠りが強く歌の内容はさっぱりわからない。でも、おかげでかえって想像はふくらみ、歌の調べが永遠に詩人の心に響く、という展開である。短い作品で言葉もシンプルだが、陶酔的な心地が伝わる名作だ。
しかし、今回注目したいのは、その姉妹篇とでも言うべき「To a Highland Girl」(「スコットランド高地の娘に寄せて」)。同じく女性との遭遇を語る詩だが、今回は会話もあり。彼女の素朴さと気立てのよさに詩人はおおいに感銘を受け、「君のご近所さんか、お兄さんになりたい！」と思う。この手前勝手な「お兄さん妄想」、今ならやや問題かもしれない。しかも、ワーズワスがこの時出会った女性は二人。そのうちの一人が美人だったので、史実を改竄して一人という設定にしたという。娘の歌声を模倣するような軽やかな「The Solitary Reaper」に対し、「To a Highland Girl」はレトリックを駆使した

優美さがある。注目したいのは、冒頭のthisやthatによる「指さし」ジェスチャーである。いかにもワーズワス的な力強い高揚感が感じられる。「And these grey rocks; that household lawn;/ Those trees, a veil just half withdrawn;/ This fall of water that doth make/ A murmur near the silent lake;/ This little bay; a quiet road/ That holds in shelter thy Abode―」このあたり、「ティンターン寺院」冒頭のあの力強い「指さし」が思い出されないだろうか？
そこであらためて思うこと。途中の「that doth make」, 「That holds in shelter thy Abode―」あたりのthatが、文法的には関係詞なのに、一瞬指示語のthatのようにも響いている。文法的には関係詞と指示語は区別されるが、本来的にはどちらも「指さし性」が内在しているのか、と思わせる。まさにこの「錯覚」こそが詩の力なのかもしれない。目の前の自然が、すべて手を伸ばせば届くような、等身大の「あれ」「それ」に変じているのだ。
(英文学者)

総記・辞典

- コンミニティ事典 待望 伊藤守・小泉秀樹・二本松政之・似田貝香門・橋本和孝・長谷部弘・日高昭夫・吉原直樹 編 コミニティの過去・現在・未来―千年に一度の大災害といわれた3・11以後、いま最も必要とされている事典!!―一五の大項目内に総四一七項目、執筆者二八四名による専門知・実践知の集大成。 A5判上製函入・二四六頁 定価(2500円+税) ISBN 978-4-86110-538-8 ¥5000
フランス語名詞・動詞連語辞典 石川三千夫(桜美林大学教授) ISBN 978-4-86110-536-4 ¥2500
ラジール雑学事典 田所清克(京都外国語大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-496-1 ¥5000
ニュージャーランド百科事典 ニュージャーランド学会 編 ISBN 978-4-86110-111-3 ¥9333
ダンテ神曲原典読解語源辞典(地獄)〈煉獄〉〈天国〉 福島治 ISBN 4-921146-77-2/ 4-921146-78-0/ 4-921146-79-9 各巻 ¥46000
現代日本語7000語辞典 橋本勝(大阪大学教授)／E・プレブジヤナ ISBN 4-921146-33-0 ¥15000
日本の英語辞書と編纂者 愛知大学文学叢書XI 早川勇(愛知大学名誉教授) ISBN 4-86110-064-X ¥6600





視覚スキーマを用いた意味拡張機づけの分析

完遂を表す複合動詞「〜きる」「〜ぬく」「〜とおす」の場合

栗田奈美 (近畿大学特任講師)

日常的に用いられるが、日本語学習者にとっては習得しにくい複合動詞。完遂を意味する複合動詞の各特徴と使い分けの実態を、豊富な用例に基づき、認知言語学の新たなアプローチから解明。A5判上製・五三八頁 定価(5500円+税) ISBN 978-4-86110-564-7

日本語のモライトネス再考―発話行為・発語媒介行為・相互行為 笹川洋子 (神戸親和女子大学教授) ISBN 978-4-86110-502-9 ¥3500

ベトナム語母語話者のための日本語教育 松田真希子 (金沢大学准教授) ISBN 978-4-86110-491-6 ¥3600

英語と開発―グローバル化時代の言語政策と教育 F・サーシント、E・J・アーリング 編 松原好次 監訳 ISBN 978-4-86110-471-8 ¥3500

英語の名詞をきわめる―可算名詞と不可算名詞の使い分け 小林悦雄 (立教大学教授) ISBN 978-4-86110-470-1 ¥1800

英語―現代英語をより深く知るために 菊池清明 (元立教大学元教授) 編 ISBN 978-4-86110-513-5 ¥1400

英文法は役に立ちます!―英語をもっと深く知りた人のために 古田直肇 (東洋大学准教授) ISBN 978-4-86110-434-3 ¥2000

第二言語学習と個性 津田塾大学言語文化研究所言語学習の個性研究グループ 編 ISBN 978-4-86110-065-9 ¥1600

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis 鈴木憲夫 ISBN 978-4-86110-114-4 ¥7619

Reflections on Chomsky's Strong Minimalist Thesis II 鈴木憲夫 ISBN 978-4-86110-300-1 ¥6667

フランス語時制論―発話行為のテキスト言語学 西村淳子 (武蔵大学教授) ISBN 978-4-86110-447-3 ¥3700

ジョンソンと「国語」辞典の誕生―十八世紀巨人の名言・金言 早川勇 (愛知大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-399-5 ¥2500

啓蒙思想下のジョンソン辞書―知の集成を目指して 早川勇 (愛知大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-380-3 ¥5000

英単語のいもち 早川勇 (愛知大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-217-2 ¥1800

英語教育の精神と実践―コミュニケーションから英米文学まで 岡田善明 (日本大学講師) ISBN 978-4-86110-361-2 ¥1800

英語教育の実践―日本人のための英語学習論 小谷悠紀子 (東京電機大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-364-3 ¥3800

フェイス相互作用理論―日本語学習クラスにおける相互作用からフェイスワークをとらえる 横溝環 ISBN 978-4-86110-286-8 ¥4667

英語のルーツ 唐澤一友 (駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-283-7 ¥2000

Experimental Studies on Prosodic Features in Second Language Acquisition 伊庭緑 (甲南大学教授) ISBN 978-4-86110-235-6 ¥4600

Languages and Language Policies In Insular Southeast Asia 河原俊昭 (元京都光華女子大学教授) ISBN 4-921146-64-0 ¥5950

はじめの論文―語用論的な視点で調査・研究する 田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 4-86110-349-0 ¥1800

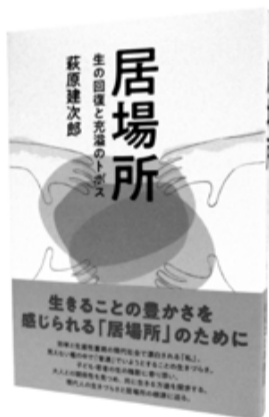
The Pragmatics of Uncertainty 田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 4-921146-22-5 ¥3333

プラグマティクス・ワークショップ―身のまわりの言葉を語用論的に見る 田中典子 (清泉女子大学教授) ISBN 4-86110-073-9 四刷 ¥1800

L'interaction Exolingue: Analyse de Phenomenes Metalinguistiques 石川文也 (立教大学教授) ISBN 4-921146-59-4 ¥8476

「俗語」から「国家語」へ―スペイン黄金世紀の言語思想 岡本信照 (京都外国語大学教授) ISBN 978-4-86110-291-2 ¥3333

教育

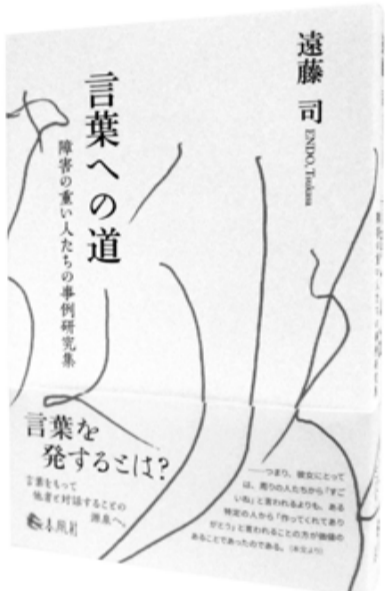


居場所

生の回復と充溢のトポス

萩原建次郎 (駒澤大学教授)

「居場所がない」とはどのような経験か―いじめや不登校、少年事件、「普通」でいることの生きづらさをめぐる若者たちの語りを手がかりに、「居場所」の意味を探究する。四六判並製・二六八頁 定価(2315円+税) ISBN 978-4-86110-566-1



言葉への道

障害の重い人たちの事例研究集

遠藤司 (駒澤大学教授)

言葉をテーマとし、一つ一つの課題に真摯に取り組み積み重ねて、言葉の世界に至る。具体的な場面を取り上げ、言葉を発することの意味、言葉をもって他者と対話することの意味について考察。四六判並製・二八八頁 定価(2800円+税) ISBN 978-4-86110-573-9



教育方法改革の理論

助川晃洋 (国士館大学教授)

国際的な学力標準、子どもの幸福度、中高一貫校、学習指導要領の改訂……現代教育の多様な問題を取り上げ、理解するための批判的視座を養う。教育の実際をこらえ、あるべき姿を構想する。A5判並製・二〇〇頁 定価(2000円+税) ISBN 978-4-86110-578-4

歴史的思考―その不自然な行為 サム・ワインバーグ 著/渡部竜也 (東京学芸大学准教授) 監訳 歴史的思考、歴史家特有の思考とは何か? 米国における詳細な質的調査研究をふまえて、歴史教育の意義と可能性を追究する。ISBN 978-4-86110-555-5 ¥5100

子どもの「内面」とは何か―言語ゲームから見た他者理解と「コミュニケーション」 杉田浩崇 (愛媛大学准教授) 子どもの内面を知ることができるか。その可能性と教育行為に内在する不確実性・両義性を、ウイトゲンシュタインの理論をもとに究明する。ISBN 978-4-86110-556-2 ¥3700

留学生の見た漢字の世界―漢字学習への創造的アプローチ 林とこ子・関麻由美・齋藤伸子 編著 ISBN 978-4-86110-568-5 ¥1852

真正の学び/学力―質の高い知をめぐる学校再建 フレッド・M・ニューマン 著/渡部竜也・堀田論訳 ISBN 978-4-86110-525-8 ¥6200

人生の調律師たち―動的ドラマトゥルギーの展開 藤川信夫 (大阪大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-540-1 ¥4500

教育実践の昭和 横須賀薫 (元十文字学園女子大学学長) ISBN 978-4-86110-512-8 ¥2000

絵本から「子ども福祉」を考える 青木文美 (愛知淑徳大学准教授) 編 ISBN 978-4-86110-514-2 ¥3400

現代の学校を読み解く―学校の現在地と教育の未来 末松裕基 (東京学芸大学准教授) 編著 ISBN 978-4-86110-504-3 二刷 ¥2300

港町に息づく集いの場

横浜市開港記念会館 〒231-0005 横浜市中区本町1-6 TEL 045-201-0708 開館時間 9:00-22:00 (毎月第4月曜日休館)



昼夜さまざまな人が行き交う大通りに、赤煉瓦造りのひときわ目を引く洒落た建物がある。横浜市開港記念会館は、「ジャックの塔」の愛称をもつ時計塔が目印の、1917(大正6)年に開館した歴史ある公会堂だ。関東大震災では内部とドームが焼失、戦時中には大空襲を免れながらも、戦後に米軍の接収地となった。その後、老朽化のために保存の選択に迫られた時もあったが、1959年には中区公会堂として再開館し、幾度かの改修工事を経て、創建当時の華やかな姿が今に伝わる。この建物は国の重要文化財に指定(1989年)され、2017年に開館100周年を迎えた。

「公会堂は市内に18か所ありますが、中でも一番利用されているのでは」と内田館長代行。国内外からの観光客や修学旅行生も多く訪れるが、貸施設として利用する方が特に多いという。「とりわけ市民の方に多く利用していただいています」と中区地域振興課の川北さん。開館時間は長く、会議やサークル活動だけでなく入社式や結婚式用の写真撮影のために利用する人もいるとのこと。「年間が一番賑わうのは10月頃、イベント(講演会など)が多いですね」。昨年の100周年記念の際には、ガイドツアーやコンサートといった多彩な催しを開き、大好評を博したという。担当した同課の五島さんは「公会堂に来ていただくことで、街全体が活性化していったらいい。まずは皆さんが利用しやすい施設として管理に励む」という。今後の展望については「ここは市民から愛されていて、記憶に残る公会堂です。将来に向けて保存していきたい」と(川北さん)。「横浜を代表する歴史的建造物ですから、建物の長寿命化は課題です」と(内田さん)。震災への対応策も講じている。

昭和から続くライトアップ、毎年3月10日頃の三塔の日、日本大通りでの中区民まつり、近隣の博物館と連携した講演会など、まちぐるみでの地域おこしも積極的に行う。館のボランティアガイド「ジャックサポーターズ」も含め、多様な工夫と努力で運営に携わる人たち、館を訪れ利用する人たち、皆が支え合うことで活動が成り立つ。街の中に根づいている公会堂の、魅力的な取り組みだ。(横)

YOKOHAMA

日本統治下台湾の教育認識―書房・公学校を中心に 呉宏明(京都精華大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-505-0 ¥3500

世界初市民性教育の国家規模カリキュラム 渡部竜也(東京学芸大学准教授) 編訳 ISBN 978-4-86110-490-9 ¥4722

モン・クッドのための歴史教育 リンダ・S・レウスティック/キース・C・バートン 著/渡部竜也他訳 ISBN 978-4-86110-445-9 ¥6000

教師のゲートキーピング―主体的な学習者を生む社会科カリキュラムに向けて S・J・ソントン 著/渡部他訳 ISBN 978-4-86110-328-5 ¥2857

キリスト教人格教育論―個人の尊厳を見つめて 吉岡良昌(元東洋英和女学院大学教授) ISBN 978-4-86110-417-6 ¥3300

いのちを育む教育学 吉岡良昌(元東洋英和女学院大学教授)・大川洋(国際基督教大学上級准教授) ISBN 978-4-86110-143-4 ¥2200

アメリカ教育福祉社会史序説―ビジティンク・ティーチャーとその時代 倉石一郎(京都大学教授) ISBN 978-4-86110-416-9 ¥3000

物語が始まるとき―共創教育の現場から 青木幸子(昭和女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-415-2 ¥1800

ワークシートで学ぶ 生徒指導・進路指導の理論と方法 林尚示・服部伴文・村木晃 ISBN 978-4-86110-355-1 ¥2000

日中教育学対話―川川 勞凱声/山崎高哉 共編 ISBN 978-4-86110-159-5 ¥3200 / ISBN 978-4-86110-220-2 ¥2800 / ISBN 978-4-86110-248-6 ¥3200

私はどのような教育実践をめざすのか―言語教育とアイデンティティ 細川英雄・鄭京姫 編 ISBN 978-4-86110-379-7 ¥2800

体当たり校長の学校づくり―8年間のニューズレター 横山芳春(豊見城市立座安小学校校長) ISBN 978-4-86110-340-7 ¥2381

子どもの心にとく授業―三重県桑名市立藤が丘小学校における六年 伊藤新司編著 ISBN 978-4-86110-326-1 ¥2381

海峡を越えて―京畿高等女子学校の思い出 太田孝子(岐阜大学教授) ISBN 978-4-86110-157-1 ¥2200

母の愛が奇跡を生む―発達遅れに挑むライニング・ホックス学習法 立川勲編 ISBN 978-4-86110-098-7 ¥1500

戦前感化・教護実践史 佐々木光郎/藤原正範 ISBN 4-921146-18-7 ¥4800

国際コミュニケーションの政治学 本多周爾(武蔵野学院大学教授) ISBN 978-4-86110-524-4 ¥3000

医療制度改革の比較政治 石垣千秋(山梨県立大学教授) ISBN 978-4-86110-534-0 ¥5400

日中比較産業史―取引慣行と制度に見る戦前期日中経済の特質 四方田雅史(静岡文化芸術大学准教授) ISBN 978-4-86110-486-2 ¥3700

アメリカの対日通貨政策の形成―1971―2003年の日米通貨交渉を事例として 増永真 ISBN 978-4-86110-359-9 ¥2700

フランス帝国主義と中国―第一次世界大戦前の中国におけるフランスの外交・金融・商工業 篠水宣孝 ISBN 978-4-86110-136-6 ¥5714

世界金融危機日中の対話―円・人民元・アジア通貨金融協力 上川孝夫・李曉編 ISBN 978-4-86110-203-5 ¥3500

生命の経済学―生物学による経済学再構築 富森茂児(北海道大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-161-8 ¥2381

「新自由主義」をぶっ壊す 青木育志(研究者) ISBN 978-4-86110-226-4 ¥1600

昭和戦前期の少年教護実践史(上・下) 佐々木光郎 上 ISBN 978-4-86110-330-8 下 ISBN 978-4-86110-331-5 各巻 ¥3500

新版 生涯学習と地域社会教育 末本誠(神戸大学大学院教授) / 松田武雄(中村学園大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-234-9 ¥2476

学びを開くNIE―新聞を使ってどう教えるか 影山清四郎(横浜国立大学名誉教授) 編著 ISBN 4-86110-080-1 ¥2381

実感から関係化へ―ある重度重複障害者と関わって 遠藤司(駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-237-0 ¥2381

増補「いい子」の非行―家裁の非行臨床から 佐々木光郎(元静岡英和学院大学教授) ISBN 4-921146-91-8 ¥1800

デュニー：人間性実現への教育―米国カリキュラム開発を考える 海谷則之(龍谷大学名誉教授) ISBN 4-921146-57-8 ¥2857

幼児キャンプ―雪の体験 山梨幼児野外教育研究会 監修 ISBN 4-921146-40-3 ¥1905

先生、いのちのことを教えて―引き揚げから養護教諭へ 引地ユリ ISBN 978-4-86110-269-1 ¥952.6

社会・歴史



海と陸の織りなす世界史

弘末雅士(元立教大学教授) 編

古代エジプトから現代のシアトル、バンクーバーに至るまで、海域と陸域の多様な関係と人びとの交流の諸相をたどり、広域ネットワークと地域社会の成立過程を明らかにする。 四六判上製・三五六頁 定価(3000円十税) ISBN 978-4-86110-592-0

ポストモダンの処方箋

21 天皇制再訪 白井聡

この4月に『国体論―菊と星条旗』と題する本を出版した(集英社新書)。タイトルから察しがつこうが、本書は天皇制論である。概要を述べるならば、本書は、明治維新以来の日本の近代史を「国体」が二度にわたって形成・発展・崩壊する歴史として描き出す試みである。言うまでもなく、戦後社会で「国体」は死語になっている。しかし、ポツダム宣言受諾の際に「国体護持」が焦点となり、戦後直後も論争が展開されたことの意味は小さくない。今日その結論は明らかになった。すなわち、国体は日米関係のなかに再構築されたのであり、その構造の頂点を占めるものが、「菊から星条旗へ」と移り変わったのである。そして現在、「戦前の国体」が大東亜戦争という滅亡の過程を突き進んだと同様に、特殊な対米従属構造という「戦後の国体」も破滅の道行きを歩んでいる。

以上の筋書きを論証することが本書の主眼であるが、執筆過程でいくつかのことに気づいた。戦後日本の批判的知識人は、天皇制ファシズムの悪夢の記憶から、多数の天皇制批判・研究に力を注いできた。しかし、しばしば「戦前回帰への警

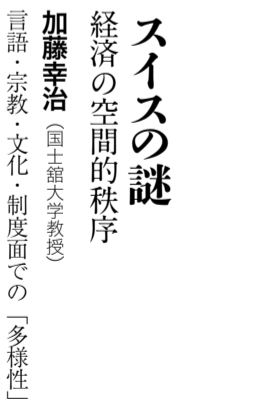
(政治学者)



エネルギーと地方財政の社会学

湯浅陽一(関東学院大学教授)

石炭から石油、原子力、再生可能エネルギーへの移り変わりの中で、地方財政はいかなる問題を抱えてきたのか。財政面での自治体の持続可能性と地方財政制度全体の課題を明らかにする。 四六判上製・三三〇頁 定価(3700円十税) ISBN 978-4-86110-586-9



スイスの謎

加藤幸治(国士館大学教授)

言語・宗教・文化・制度面での「多様性」が拡がりつつあるにもかかわらず、スイスが国民国家として一体化しているのはなぜか? その謎を経済地理学的観点から解明する。 A5判並製・二〇〇頁 定価(2700円十税) ISBN 978-4-86110-585-2



カヌードスの乱

住江淳司(名教大学教授)

19世紀末、共和制移行直後のブラジル。「救世主」に率いられた千年王国的共同体を設立した農民たちは、政府軍に対して最後まで戦い、2万5千人が全滅した。ブラジル史上最悪の内戦の全貌を描く。 四六判上製・一七〇頁 定価(3200円十税) ISBN 978-4-86110-571-5

戦後小樽の軌跡―地方都市の衰退と再生 内藤辰美(山形大学名誉教授)・佐久間美穂(川村学園女子大学准教授) ISBN 978-4-86110-526-5 ¥3800

北の商都「小樽」の近代―ある都市の伝記 内藤辰美(山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-450-3 ¥3900

都市の遺産とまちづくり―アジア大都市の歴史保全 鈴木伸治(横浜市立大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-560-9 ¥2200

新版 学問の暴力―アイヌ墓地はなぜあはれたか 植木哲也(宮小牧駒澤大学教授) ISBN 978-4-86110-531-9 ¥2400

〈フォーク〉からの転回―文化批判と領域史 小長谷英代(早稲田大学教授) ISBN 978-4-86110-535-7 ¥4300

ミットフォードと釈尊 アルジャーノン・B・ミットフォード著/大西俊男(元三重大学教授) 訳 ISBN 978-4-86110-524-1 ¥2200

都市近隣組織の発展過程―コミュニティガバナンスの日米比較論 大内田鶴子(江戸川大学教授) ISBN 978-4-86110-527-2 ¥5000

東亜連盟運動と石原莞爾 内村琢也(研究者) ISBN 978-4-86110-522-7 ¥5000

素描・杉原千畝 小谷野裕子(ニッセイエスエ) ISBN 978-4-86110-528-9 一刷 ¥1800

天馬山―北朝鮮からの引揚げ者の語り 浅井亜紀子(桜美林大学教授) 編著 ISBN 978-4-86110-519-7 ¥2200

インド・イスラーム王朝の物語とその建築物 宮原辰夫(文政大学教授) ISBN 978-4-86110-509-8 ¥2700

「幻の東京オリンピック」の夢にかけた男―日本近代スポーツの父・岸清一物語 古城庸夫(江戸川大学准教授) ISBN 978-4-86110-484-8 ¥2000

歴史教科書とナショナリズム―日本とドイツ 原口健治(青山学院大学教授) ISBN 978-4-86110-506-7 ¥2700

宝は田から―しあわせの農村民俗誌 山形県米沢 佐野賢治(神奈川大学教授) ISBN 978-4-86110-507-4 ¥3500

先生、NPOって儲かりますか?―若者たちが地元で働く生きる方法 渡辺豊博(元都留文科大学教授) ISBN 978-4-86110-480-0 ¥1389

今、田村明を読む―田村明著作選集 鈴木伸治(横浜市立大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-508-1 一刷 ¥2000

ケニアへかけた虹の橋―30年の国際ボランティア活動 NPO法人「少年ケニヤの友」 編 ISBN 978-4-86110-485-5 ¥1333

米国の沖縄占領と情報政策―軍事主義の矛盾とカモフラージュ 吉本秀子(山口県立大学教授) ISBN 978-4-86110-451-0 ¥6500

ホストセリングを知っていますか?―日本の子ども向けテレビCMの実態 山下玲子、藤井達也 ISBN 978-4-86110-435-0 ¥3000

変容するテレビニュースとキャスターの役割 深澤弘樹(駒澤大学准教授) ISBN 978-4-86110-432-9 ¥3400

婚姻連帯論と社会学―レヴィストロース、デュルケムをめぐって 門口充徳(成蹊大学教授) ISBN 978-4-86110-423-7 ¥4900

ヘリーと黒船祭―日米文化外交史 佐伯千鶴(北アバマ大学准教授) ISBN 978-4-86110-425-1 ¥2200

雛の誕生―雛節供に込められた対の豊穡 皆川美恵子(十文字学園女子大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-439-8 ¥3800

スイスの歴史ガイド グレゴワール・ナッペイ著/藤野成爾 訳 ISBN 978-4-86110-413-8 一刷 ¥1800

地域と越境―「共生」の社会経済史 内田日出海・谷澤毅・松村岳志 編 ISBN 978-4-86110-407-7 ¥3500

不思議フランス 魅惑の謎 藤野敦子(京都産業大学教授) ISBN 978-4-86110-401-5 一刷 ¥1800

台湾―メディア・政治・アイデンティティ 本多周爾(武蔵野学院大学院教授) ISBN 978-4-86110-216-5 ¥2381

前川教授の人生、血液型。―血液型が信じられる34の理由 前川輝光(亜細亜大学教授) ISBN 978-4-86110-396-4 ¥1500

保守のコンテ 中島岳志(東京工業大学教授) ISBN 978-4-86110-227-1 ¥1800

変容する冷戦後の世界―ヨーロッパのリベラル・デモクラシー 永松雄彦・萬田悦生 編 ISBN 978-4-86110-224-0 ¥2381

空間のエスノグラフィ―文化を横断する 川床靖子(大東文化大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-367-4 ¥2700

「敵国語」ジャーナリズム―日米開戦とアメリカの日本語新聞 水野剛也(東洋大学教授) ISBN 978-4-86110-258-5 ¥5200

日系アメリカ人強制収容とジャーナリズム―リベラル派雑誌と日本語新聞の第二次世界大戦水野剛也 ISBN 4-86110-038-0 ¥4600

中心と周縁―タイ、天草、シカゴ 佐久間美穂(川村学園女子大学准教授)・内藤辰美(山形大学名誉教授) ISBN 978-4-86110-369-8 ¥3500

1920年代の日本と国際関係―混沌を越えて「新しい秩序」へ 杉田米行(大阪大学教授) 編 ISBN 978-4-86110-262-2 ¥2500

ネットワーク社会と空間のポリテイクス―都市・モダニティ・グローバル化―大澤善信 ISBN 978-4-86110-202-8 ¥2800

ブラジルの都市問題―貧困と格差を越えて 住田育法(京都外国語大学教授) 監修 ISBN 978-4-86110-173-1 ¥3619

フランス革命を旅したイギリス人―リクビー博士の書簡より E・リクビー著/川分圭子 訳 ISBN 978-4-86110-171-7 ¥2381

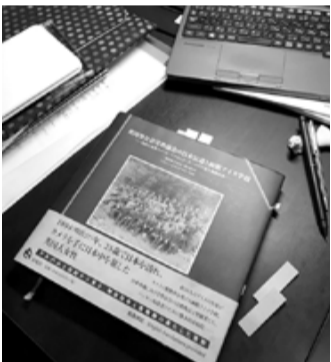
貧困をどのように捉えるか―H・カンズの貧困論 西村貴直(関東学院大学准教授) ISBN 978-4-86110-343-8 ¥3333

イングランドの地名―起源と歴史を訪ねて K・キヤメロン著/吉見昭徳(明治学院大学名誉教授) 訳 ISBN 978-4-86110-290-5 ¥4286

表象のヴェネツィア―詩と美と悪魔 鳥越輝昭(神奈川大学教授) ISBN 978-4-86110-329-2 ¥2800

旅する対話―ティラスボラ・戦争・再生 姜信子(作家)、ザラ・イマーエフ(映像作家) 編 ISBN 978-4-86110-350-6 ¥1800

『英国聖公会宣教協会の日本伝道と函館アイヌ学校 英国人女性エディス・ヘアリング=グールドが見た明治日本』 田辺陽子 編著/西口忠 著/フィリップ・ピリングズリー 監修



BOOK REVIEW

本書は、断片的な記録しか残されていなかった函館のアイヌ学校の資料が、英国のパーミンガム大学所蔵の英国聖公会宣教協会 (CMS: Church Missionary Society) 資料群から発見され紹介されたことに大きな意義を持つ。CMSの本部女性職員だったエディス・ヘアリング=グールドは生涯多くの海外視察の機会をもち、1894年にはほぼ2カ月にわたり日本に滞在し函館から長崎までを旅した。その旅行記にはエディス自らが撮影した写真によって写し出された貴重なアイヌ学校の歴史が刻まれていた。

この資料には二つの稀な要素が重なっている。日本に宣教に来たCMSは「単一民族国家日本」としての枠から外されたアイヌの人々に出会い学校を開くに至る。そして、エディスには当時一般に女性スタッフには許可されなかった宣教地への公式訪問が許されていた。後年、大きくクローズアップされていく先住民やジェンダーといった「マイノリティー」への視角は、まだ人々の意識に上がっていない。そんな時代にこの記録は生まれている。

アイヌ学校はアイヌの若者たちにオルタナティブ教育の機会を提供したと編者による解説で指摘されていることが印象に残った。アイヌの親たちは函館のアイヌ学校に子どもたちをよこすことで、近世以来アイヌに課せられてきた被差別の機制からの脱却を願った。そしてコダックのカメラを携えたエディスもまた、女性の活動を私的な圏域に限定するいわゆる「分離領域 (separate sphere)」を越えて被写体に迫った。これら二つの越境のベクトルが交錯する画像のうちにわれわれは何を読み取るのだろうか。

本書は、革の装丁本のようなデザインがまず美しく、ページを開けると大きくレイアウトされた写真、原資料から転写されたハンドライティングの英文が、エディスの旅行記の息遣いを彷彿とさせる。編・著者の解説も的確であり、貴重な一次資料を発見した興奮がひしひしと伝わってくる読み応えのある研究書である。

◆松本郁子〔東京大学大学院人文社会系研究科 文化資源学 研究専攻 博士課程/専門:文化経営学〕(本頁に本の紹介)

東アジアの秩序を考える

歴史・経済・言語

岩下哲典、安田震一、橋本真吾、塚越俊志、小川唯、高田誠、中川仁、濱口裕介、吉田雅子

18世紀以降、西洋の外圧を受けながら、東アジアはどのような秩序を構築していったのか? 美術、宗教、軍事、教育などの観点から、中国・台湾・日本における秩序の形成と変容の諸相を探る。 四六判並製・三五四頁 定価(3700円+税) ISBN 978-4-86110-574-6



英国聖公会宣教協会の日本伝道と函館アイヌ学校

英国人女性エディス・ヘアリング=グールドが見た明治日本 田辺陽子 編著/西口忠 著

フィリップ・ピリングズリー 監修 明治27年、23歳で日本を訪れ、カメラを手に日本中を旅したエディス。函館アイヌ学校など、日本初公開写真を多く含むアルバムと旅日記を再構成した写真集。日英併記。 A4変形判上製・二九四頁 定価(2600円+税) ISBN 978-4-86110-580-7



当事者が支援する 薬物依存からの回復 ダルクの日々パート2

南保輔(成城大学教授)

中村英代(日本大学教授) 相良翔(埼玉県立大学助教) 編

なぜ薬物に依存するのか? ダルクのスタッフは原則全員が薬物依存経験者。若手からスタッフ歴20年を超えるベテランまで、新たな仲間を支援しながら自らの回復を紡ぐ、11名のライフストーリー集。 四六判並製・二七二頁 定価(2000円+税) ISBN 978-4-86110-584-5





人類学



流れをよそおう

レバノンにおける相互行為の人類学
池田昭光 (東京外国語大学研究員)

様々な宗教・宗派集団が共存し、内戦の記憶の残るレバノン。日常の微細な場面に光を当て、「流れ」という言葉で、客体化から逃れながら行為しようとする人びとの様態を記述する。

四六判上製・二四四頁 定価(3500円+税)
ISBN 978-4-86110-587-6

都市の寺廟

シンガポールにおける 神聖空間の人類学

福浦厚子 (滋賀大学教授)

厳しい宗教政策の中で生き残りをはかる寺廟。盛大な年中行事は多額の喜捨を集め、霊媒による交霊会には悩みを抱えた依頼者が日々訪れる。都市社会における神聖空間の役割を探る民族誌。

A5判上製・三三三頁 定価(4000円+税)
ISBN 978-4-86110-599-9



文化遺産はたれのものか トルコ・アナトリア諸文明の遺物をめぐる所有と保護
田中英資 (福岡女学院大学准教授)

様々な時代の遺跡が重層的に残るトルコ。過去の痕跡をめぐる国内外の主張から、「文化遺産」という概念を問い直す。

ISBN 978-4-86110-3548-7

建築人類学―読む・描く・造る
牧野冬生 (駒沢女子大学特任准教授)

ISBN 978-4-86110-539-5

貧困と連帯の人類学―ブラジルの路上市場における二方的贈与
奥田若菜 (神戸外国語大学准教授)

ISBN 978-4-86110-532-6

The Agricultural Mongols
ボルジギン・ソレンサイン (滋賀県立大学准教授)

ISBN 978-4-86110-543-2

「共感」へのアフロチー文化人類学の第一歩
渥美一弥 (自治医科大学教授)

ISBN 978-4-86110-497-8

霊媒のいる街―北タイ、チェンマイの宗教復興
福浦一男 (桐蔭横浜大学准教授)

ISBN 978-4-86110-489-3

〈紛争〉の比較民族誌―グローバル化におけるオセアニアの暴力・民族対立・政治的混沌
丹羽典生編著

ISBN 978-4-86110-482-4

つなかりの民族誌―中国摩梭人の母系社会における「共生」への模索
金穂初美 (西南学院大学教授)

ISBN 978-4-86110-487-9

来たるべき人類学 (全五巻)

シリーズ

- セックスの人類学
奥野克己・椎野若菜・竹ノ下祐二編
ISBN 978-4-86110-180-9 二刷 ¥1905
- 経済からの脱出
織田竜也・深田淳太郎編
ISBN 978-4-86110-200-4 ¥2381
- 宗教の人類学
吉田匡興・石井美保・花洲馨也編
ISBN 978-4-86110-247-9 ¥1905
- アジアの人類学
片岡樹・シンジルト・山田仁史編
ISBN 978-4-86110-357-5 一刷 ¥2381
- 人と動物の人類学
奥野克己・山口未花子・近藤祉秋編
ISBN 978-4-86110-325-4 ¥2381

Domino provincial en el Imperio inca
渡部森哉 (南山大学教授)

ISBN 978-4-86110-431-2 ¥4630

Estructura en los Andes Antiguos
渡部森哉 (南山大学教授)

ISBN 978-4-86110-371-1 ¥5714

インカ帝国の成立―先スペイン期アンデスの社会動態と構造
渡部森哉 (南山大学教授)

ISBN 978-4-86110-205-9 ¥7619

増殖するシャーマン―モンゴル・プリアートのシャーマニズムとエスニシティ
島村一平 (滋賀県立大学准教授)

ISBN 978-4-86110-299-8 ¥7500

The Roots Seekers: Shamanism and Ethnicity among the Mongol Buryats
島村一平 (滋賀県立大学准教授)

ISBN 978-4-86110-397-1 ¥6667

ダワー・タンザニア、反乱と治療をもちあす謎の概念
岩崎明子 (文化人類学者)

ISBN 978-4-86110-389-6 ¥3333

ナシヨナリズムと宗教―現代インドのビン・ドゥー・ナシヨナリズム運動
中島岳志 (東京工業大学教授)

ISBN 4-86110-048-8 ¥3619

癒しと呪いの人類学 (第二版)
板垣明美 (横浜国立大学准教授)

ISBN 978-4-921146-86-3 ¥2800

ヴェトナム―変化する医療と儀礼
板垣明美 (横浜国立大学准教授) 編

ISBN 978-4-86110-145-8 ¥2381

刊行予定 (タイトルは仮)

- ▼随想 京都学派の歴史哲学 小野寺功▼新版 大地の哲学 小野寺功▼仏教偏頗の研究 岩松浅夫▼よく生きるための死生観 岩崎大▼カントの人權思想 菅沢龍文▼デカルトによる修練の哲学 津崎良典▼古代ギリシャの死生観 木原志乃▼ブルー・マルクス 庭園の美学 荒井芳廣訳▼キルケゴールの実存解釈 河上正秀▼翻訳と倫理 静岡大学翻訳研究会▼新井奥達選集 コール・ダニエル、三浦衛▼フイヒテ伝 湯浅正彦他訳▼非在を拓く 中村靖子他▼死ぬ権利はあるか 有馬斉▼深い河の流れ 長谷川 (問瀬) 恵美▼Contemporary Irish Plays 佐竹晶子▼ポール・ボウルズ論 外山健二▼「土佐日記」の言説研究 佐藤美弥子▼左伝の女たち 尾崎保子▼荒野へII 中井農▼アグリナスに魅せられて 大月和彦▼深田晋一▼原典対照「ペーオウルフ」 吉見昭徳▼中央ヨーロッパ 歴史と文学 桂元嗣▼T.S. Eliot 山口敦子▼D.H. ロレンスと雌牛スーザン 木村公一、倉田雅美、小林みどり訳▼ジョイスの拡がり 田村章▼鐘の音が響くカフェで 田村奈保子▼ジョー・オートン 矢島直子▼ブロンテ姉妹のこどもたち 岩上はる子、惣谷美智子編▼イヴの娘 宇多直久訳▼現代アメリカ文学における「保守」の諸相 山口和彦、中谷崇編▼エミリー・ディキンソンを理詰めで読む 江田孝臣▼トロイア戦争の三人の英雄たち 川井万里子▼詩集 風のなかで 北岡武司▼横浜の若き表現者たち 細見葉介▼ホフマンスタールと日本 関根裕子▼17〜18世紀のポロランド 演劇史 谷山和夫▼明治・大正期東京の歌舞伎興行 寺田詩麻▼暮らした日本語 (スペイン語版) 長谷川哲子▼暗記嫌いのためのロジカル英語入門 佐藤美弥子▼ウェールズ語の歴史 小池剛史▼おしゃべりなポライトネス 笹川洋子▼自律のための教育学 大川洋▼雑刀と学校 教育 井上アヤ子▼野の学校 佐々木光郎▼擬人化の心理学 北村文昭▼そこには何かある 牟田隆郎▼教育と他者 橋本憲幸▼教育のリーダーシップとハンナ・アレント 末松裕基、生澤繁樹、橋本憲幸訳▼健康自然塾 川村協平▼「ノ」の人間観・世界観に基づいたスピリチュアルケア 小西達也▼アメリカ人の生活と学校カリキュラム 渡部竜也他訳▼アメリカ教育福祉社会史序説 II 倉石二郎▼共同体による自己形成 生澤繁樹▼教育の理念・歴史・思想 藤井基貴、中村美智太郎編著▼「ウェルフェア・リング」イステック・ス」とは何か 佐藤謙司、尾辻絵美編▼小学校英語への専門的アプローチ 綾部保志編▼大学の理念 豊崎光衛訳▼反骨の統計家 太田和宏▼現代中東政治学 末近浩太▼アメリカの戦争 掘真理子他▼社会学のシステム理論の軌跡 赤堀三郎▼エッセイ風都市社会学 吉瀬雄一▼基礎的自治体と町内会自治会 日高昭夫▼江戸大伝馬町の馬込勘解由 高山慶子▼イラン人とは誰のことか 八尾師誠、坂梨祥、斎藤正道訳▼社会学批判と現代 内藤辰美▼韓国の地方民家

春風掃人

山奥のさらに奥の水源。すこしずつ量を増し、小川となり、ながいときをへて大海へとそそぐ。そのまがりくねりのびみょうを思う。土にしみこむ水があり、それでもまた流れゆく。個性ということのひとつのイメージ。個性がのびゆくのたにいせつなことは、教えることよりもむしろきくことにあるかもしれない。映画『鎌倉アカデミア 青の時代』をみて思った。きくこと、よくきくこととは、簡単そうにみえて実はそうではないのだらう。自分の枠をいったん外し、よくきいて、やがて、言葉が、砂地に水がしみこむようになるまできいて、それでも流れは止まない。映画監督、俳優、劇作家、翻訳家…。最初からその職業に「つこう」と思った人は、おそらくひとりもいなかった。自身に流れる水の音をすませながら、ききわけてくれる教師や友だちにまごごと身をまかせているうちに、しむ水はしみ、まがりくねりの個性のゆき先がだんだんとみえてきた。鎌倉アカデミアの教授陣は戦争をくぐっている。みずからを、ひびわたした土に化すことを潔しとしなかつた人びと。時代の波をくぐり、それでもサラサラとしたややかな砂としての誇りを堅持し、新しい時代の生徒たちに、清水の流れゆく先の道標となつてくれたのだらう。いまも由比ヶ浜の白砂と青い海が目の前にひろがっている。

(二)

春風新聞 第三号 二〇一八年五月七日発行
発行者：三浦衛 発行所：春風社
印刷：シナノ書籍印刷 レイアウト：矢萩多聞